

《資料》

中小企業の労働環境（2018年）

—2018年度に実施した2社へのアンケート調査に基づく認識ギャップ—

関 智 宏

- I はじめに
- II 方法・データ
- III 結果
- IV デイスカッション
- V 小結
- VI 補論—中小企業で働く（2017年）：2017年度における大学生を対象とした調査から—

1. はじめに

本稿では、2018年度に実施した中小企業2社への労働環境にかかるアンケート調査に基づき、中小企業の労働環境に対する経営者と従業員との間、さらには2社間の従業員の認識ギャップを明らかにすることを目的としている。

中小企業にはさまざまなイメージをとまなう。たとえば筆者が2014年度に大学生を対象に実施した調査によれば¹（関，2018a），多くみられた回答のなかでいくつかの 카테고리を確認することができる。これら多様なイメージのなかで、労働環境にかんする一般的なイメージがある。ここでは、たとえば経営者（社長）と従業員との間の距離が近いといった、中小企業の労働環境に対する積極的なイメージがとりあげられることがある（たとえば、関，2017；2018a）。しかしながら、中小企業はそのマネジメントのあり方が企業ごとで多様であるために、真にその労働環境に対する積極的なイメージがいかに経営実践されているかどうかは企業によって異なる場合がある²。とくに中小企業のなかには、経営者はそのように実践していると認識していたとしても、従業員はそう感じていないといった経営者と従業員との間の認識ギャップが存在していることも考えられる。また、中小企業で従事する従業員の間でも、必ずしもそのようなイメージを共有していないといった従業員の間での認識ギャップが存在している企業もあることも考えられる。

-
- 1 本調査は、2014年度に、筆者が勤務する大学において「中小企業論」の講義を履修する大学生を対象に、中小企業のイメージにかかる調査の一環として、「中小企業と聞いて思いつくイメージ」を5つ以上あげ、指定の用紙に箇条書きで記述するよう依頼し、その回答を得た。有効回答は338であった。分析にあたっては、KH Coderをもちいた。本調査結果の詳細については、関（2018a）を参照のこと。
 - 2 中小企業には積極的なイメージに反して、賃金が安い、福利厚生が悪い、といった消極的なイメージも多くもたれることがある。積極的なイメージと同様に、そうした消極的なイメージが真であるかどうかについても、その実践について調査していく必要がある。

そこで本稿では、中小企業2社に対して筆者が独自に実施したアンケート調査から得たデータを基に、中小企業の労働環境に対する経営者と従業員との間の認識ギャップ、また2社の従業員の認識ギャップという上記の2つの点について検討していく。

本稿の構成は以下のとおりである。第Ⅱ節では、アンケート調査の方法と、調査によって得られたデータについて概略を述べる。第Ⅲ節では、アンケート調査から得られたデータを分析する。第Ⅳ節では、分析結果を基に検討を行う。第Ⅴ節は、小結である。また、第Ⅵ節では、補論として、「中小企業で働く」をテーマに2017年度に実施した大学生を対象とした調査の一部を紹介する。この調査結果については拙稿(2018b)ですでに一部を紹介しているが、紙幅の関係からそこで掲載することができなかったデータを紹介する。

Ⅱ 方法・データ

中小企業における労働環境に対する経営者と従業員との間、さらには従業員との間の認識ギャップを明らかにしていくために、調査対象となる中小企業2社を選定した。2社の選定基準は、この認識ギャップを明らかにすることに対して、調査実施者であるわれわれに対して全面的に協力していただけるという関係性を構築している企業であることを前提に、①2社間で従業員規模がほぼ同じであること、②2社間で異なる業種であること、③2社のうち社長が創業者と後継者のそれぞれであること、とした。ここでいう従業員とは、常用雇用者ではなく、パートタイマーやアルバイトなどを含めた従業員総数である。このように2社間で異なる企業属性を注視したのは、結果として中小企業2社の間に仮に認識ギャップが顕在化したさいに、その要因がいずれの企業属性に起因するのかを推察するためである。

選定された2社は、1社は印刷業であり、創業は1956年(設立は1958年)、資本金額は1500万円、従業員数は18名、代表は2代目の後継社長である。もう1社は金属部品加工及び化粧品生産用システム機械設計製造を事業としており、創業は2005年(設立は2007年)、資本金額は100万円、従業員数は、パートタイマーなどを含めて21名、代表は創業社長である。2社の概要をまとめたものが、表1である。

表1 調査対象となった中小企業2社の概要

	A社	B社
業種	印刷業	金属部品加工及び化粧品 生産用システム機械設計製造
創業	1956年	2005年
設立	1958年	2007年
資本金額	1500万円	100万円
従業員数	18名	21名
正社員	18名	12名
パート	0名	5名
その他	0名	4名

中小企業の労働環境にかかるアンケート調査を行うにあたって、調査項目を確定させるために、2018年4月26日に、選定対象となった中小企業2社を訪問し、それぞれの経営者に対して、自社の経営にかかるパイロット調査をインフォーマル・インタビュー方式で行った。経営者へのインタビューから、労働環境に関係すると考えられた諸項目を14項目ほど抽出した。この14項目は、「社長と社員の壁がない」、「社員間でコミュニケーションがとれている」、「社員同士の結束が深まっている」、「社員が大切にされている」、「社員1人1人の状況を把握できている」、「人間として成長できる環境がある」、「仕事や自社の商品に誇りを持っている」、「仕事を楽しめている」、「仕事にやりがいを感じている」、「会社にかかわるすべての人を大事にしている」、「会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある」、「アットホームで雰囲気が良い」、「新しいことにチャレンジしている」、「経営理念が明確である」、である。

2018年5月中旬までにかけて、2社の経営者に対して、われわれが抽出した労働環境にかかる14項目について表現などの確認を依頼し、調査対象の2社の経営者からそれぞれ了承を得て、項目を確定させた。そのうえで2018年5月中旬に、2社の経営者に依頼するかたちで、経営者ならびに従業員に対してアンケート調査を実施した。アンケート調査は、それぞれの調査項目において「そう思う」から「そう思わない」の5点尺度とした。このアンケート調査票を示したものが、表2である。なお、従業員がアンケート調査に回答するにあたっては、労働環境の実態を明らかにし経営改善に活用するという目的のうえで、強制ではなくあくまで任意であること（評価に影響しない）、匿名性を担保するために、回答したアンケートは厳封すること、勤務時間外で行うこと、を徹底した。そして、追加質問事項も別途まとめたうえで、2018年5月24日に中小企業2社を再度訪問し、追加質問を行うとともに、経営者ならびに従業員のアンケート調査票を回収した。

表2 アンケート調査票

	(そう思う)					(そう思わない)				
社長と社員の壁がない.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
社員間でコミュニケーションがとれている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
社員同士の結束が深まっている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
社員が大切にされている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
社員1人1人の状況を把握できている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
人間として成長できる環境がある.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
仕事や自社の商品に誇りを持っている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
仕事を楽しめている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
仕事にやりがいを感じている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
会社にかかわるすべての人を大事にしている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある..	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
アットホームで雰囲気が良い.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
新しいことにチャレンジしている.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
経営理念が明確である.....	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

アンケート調査票は、A社から経営者1名、従業員18名、またB社から経営者1名、従業員21名³を得た。得られたデータは、まずA社とB社それぞれについて、経営者と従業員との間でt検定を行った。次に、A社とB社の従業員のみをとりあげ、2社の間でt検定を行った。

Ⅲ 結 果

t検定の結果を示したものが、表3～5である。

まず、A社とB社のそれぞれについて、経営者と従業員との間の認識ギャップについてみて

表3 A社の結果

項 目	対象	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率 (両側)	平均値の差
社長と社員の壁がない	経営者	1	4.00		1.216	0.241	1.611
	従業員	18	2.39	1.290			
社員間でコミュニケーションがとれている	経営者	1	2.00		-0.550	0.590	-0.556
	従業員	18	2.56	0.984			
社員同士の結束が深まっている	経営者	1	2.00		-0.176	0.863	-0.167
	従業員	18	2.17	0.924			
社員が大切にされている	経営者	1	4.00		0.909	0.376	1.222
	従業員	18	2.78	1.309			
社員1人1人の状況を把握できている	経営者	1	2.00		0.085	0.934	0.056
	従業員	18	1.94	0.639			
人間として成長できる環境がある	経営者	1	4.00		0.519	0.610	0.556
	従業員	18	3.44	1.042			
仕事や自社の商品に誇りを持っている	経営者	1	4.00		0.331	0.745	0.389
	従業員	18	3.61	1.145			
仕事を楽しめている	経営者	1	4.00		0.734	0.473	0.722
	従業員	18	3.28	0.958			
仕事にやりがいを感じている	経営者	1	4.00		0.527	0.605	0.500
	従業員	18	3.50	0.924			
会社にかかわるすべての人を大事にしている	経営者	1	4.00		0.623	0.542	0.778
	従業員	18	3.22	1.215			
会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある	経営者	1	3.00		0.545	0.593	0.611
	従業員	18	2.39	1.092			
アットホームで雰囲気が良い	経営者	1	3.00		0.415	0.683	0.444
	従業員	18	2.56	1.042			
新しいことにチャレンジしている	経営者	1	5.00		1.318	0.205	1.556
	従業員	18	3.44	1.149			
経営理念が明確である	経営者	1	2.00		-0.977	0.342	-1.333
	従業員	18	3.33	1.328			

3 B社のアンケート調査票では、経営者として回答した調査票が2つほどあったが、代表者以外を従業員とみなし、2つは従業員として集計した。

表4 B社の結果

項目	対象	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率 (両側)	平均値の差
社長と社員の壁がない	経営者	1	3.00		-0.407	0.688	-0.429
	従業員	21	3.43	1.028			
社員間でコミュニケーションがとれている	経営者	1	3.00		-0.633	0.534	-0.714
	従業員	21	3.71	1.102			
社員同士の結束が深まっている	経営者	1	2.00		-1.109	0.281	-1.238
	従業員	21	3.24	1.091			
社員が大切にされている	経営者	1	3.00		-0.462	0.649	-0.571
	従業員	21	3.57	1.207			
社員1人1人の状況を把握できている	経営者	1	3.00		0.043	0.966	0.048
	従業員	21	2.95	1.071			
人間として成長できる環境がある	経営者	1	3.00		-1.752**	0.095	-1.714
	従業員	21	3.14	1.236			
仕事や自社の商品に誇りを持っている	経営者	1	2.00		-0.699	0.492	-0.619
	従業員	21	3.71	0.956			
仕事を楽しめている	経営者	1	2.00		0.423	0.677	0.524
	従業員	21	3.71	0.956			
仕事にやりがいを感じている	経営者	1	3.00		-1.574	0.131	-1.857
	従業員	21	3.62	0.865			
会社にかかわるすべての人を大事にしている	経営者	1	1.00		0.043	0.966	0.048
	従業員	21	3.57	1.076			
会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある	経営者	1	4.00		-1.752**	0.095	-1.714
	従業員	21	3.48	1.209			
アットホームで雰囲気が良い	経営者	1	3.00		-0.699	0.492	-0.619
	従業員	21	3.90	1.091			
新しいことにチャレンジしている	経営者	1	2.00		0.423	0.677	0.524
	従業員	21	3.86	1.153			
経営理念が明確である	経営者	1	4.00		-1.574	0.131	-1.857
	従業員	21	3.71	1.146			

注：**10% 有意

いく。A社については、すべての項目について経営者と従業員との間に統計的に有意な差はみられなかった。統計的に有意な差はみられなかったが、「社長と社員の壁がない」と「新しいことにチャレンジしている」の2つの項目については、他の項目と比べて比較的顕著な差がみられた。また、B社については、「人間として成長できる環境がある」と「会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある」の2つの項目で10%水準（両側）で経営者と従業員との間に統計的に有意な差がみられた（ともにt値はマイナス）。統計的に有意な差はみられなかったが、「仕事にやりがいを感じている」、「経営理念が明確である」の2つの項目については、他の項目と比べて比較的顕著な差がみられた（ともにt値はマイナス）。

次に、A社とB社の従業員について、2社の間の従業員の認識ギャップの違いをみていく。t

表5 A社とB社の従業員の比較

項目	対象	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率 (両側)	平均値の差
社長と社員の壁がない	A社	18	2.39	1.290	-2.801***	0.008	-1.040
	B社	21	3.43	1.028			
社員間でコミュニケーションがとれている	A社	18	2.56	0.984	-3.438***	0.001	-1.159
	B社	21	3.71	1.102			
社員同士の結束が深まっている	A社	18	2.17	0.924	-3.278***	0.002	-1.071
	B社	21	3.24	1.091			
社員が大切にされている	A社	18	2.78	1.309	-1.969**	0.056	-0.794
	B社	21	3.57	1.207			
社員1人1人の状況を把握できている	A社	18	1.94	0.639	-3.491***	0.001	-1.008
	B社	21	2.95	1.071			
人間として成長できる環境がある	A社	18	3.44	1.042	0.816	0.420	0.302
	B社	21	3.14	1.236			
仕事や自社の商品に誇りを持っている	A社	18	3.61	1.145	-0.307	0.761	-0.103
	B社	21	3.71	0.956			
仕事を楽しめている	A社	18	3.28	0.958	-1.420	0.164	-0.437
	B社	21	3.71	0.956			
仕事にやりがいを感じている	A社	18	3.50	0.924	-0.415	0.680	-0.119
	B社	21	3.62	0.865			
会社にかかわるすべての人を大事にしている	A社	18	3.22	1.215	-0.952	0.347	-0.349
	B社	21	3.57	1.076			
会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある	A社	18	2.39	1.092	-2.926***	0.006	-1.087
	B社	21	3.48	1.209			
アットホームで雰囲気が良い	A社	18	2.56	1.042	-3.931***	0.000	-1.349
	B社	21	3.90	1.091			
新しいことにチャレンジしている	A社	18	3.44	1.149	-1.116	0.271	-0.413
	B社	21	3.86	1.153			
経営理念が明確である	A社	18	3.33	1.328	-0.962	0.343	-0.381
	B社	21	3.71	1.146			

注：***5% 有意, **10% 有意

検定の結果、「社長と社員の壁がない」、「社員間でコミュニケーションがとれている」、「社員同士の結束が深まっている」、「社員1人1人の状況を把握できている」、「会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある」、「アットホームで雰囲気が良い」が5%水準（両側）で、また「社員が大切にされている」が10%水準（両側）で統計的に有意な差がみられた。これらすべての項目におけるt値がマイナスであり、B社の平均値がA社を上回っていた。

IV ディスカッション⁴

まず、A社とB社のそれぞれについての経営者と従業員との間の認識ギャップについてみていく。A社は印刷業であり、経営者は後継者であるとともに、A社の社歴も比較的長い。A社は、この数年において大学生の新卒採用を積極的に進めてきている。そうした若手人材を積極的に採用していく過程で、経営者が社内の労働環境について配慮したマネジメントを行うようになってきたことが、従業員との認識ギャップの差を埋め合わせる1つの要因になっていると推察される。しかしながら、経営者は若手人材の確保に取り組むなかで積極的に社員との壁をなくそうとしており、また印刷業が構造不況業種であることに鑑み、経営者は積極的に新しいことにチャレンジしようとしているのに対して、従業員はそれほど認識していなかったことが明らかになった。これは新卒採用など新しいことへのチャレンジにせよ、経営者の思いが強い反面、従業員はこれまでどおりの内容、すなわち中途採用やルーティンの業務が通常業務の範囲であるという認識が強くあらわれていると言える。

B社は、金属加工業であり、経営者は創業者である。金属加工という労働環境が比較的悪いとされる業種に従事しており、ここ数年は業績の維持ならびにさらなる事業の成長に注力している。経営者自身は、創業者であることもあり、従業員の労働環境に十分に配慮した経営を行う余裕すらないという認識であった。しかしながら、従業員からすれば、「人間として成長できる環境がある」と「会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある」、「仕事にやりがいを感じている」、「経営理念が明確である」という点で、経営者よりも強く認識していることが明らかになった。従業員は、むしろ創業者である経営者の意図をくみ取り、いまの労働環境を積極的に評価するだけでなく、自発的に労働環境を良くしようという姿勢さえ持ち合わせていることが明らかとなった。

4 以下のB社の記述について、2018年12月13日に実施した、京都中小企業家同友会青年部会と同志社大学商学部関ゼミとの共同企画による青年部会例会での、B社の経営者による講演内容に基づいている。なおこの青年部会例会は、「中小企業から地域企業へー地域に必要とされる企業とは？ー」を主題とした、京都中小企業家同友会青年部会と同志社大学商学部関ゼミとの初の産学連携例会として開催された。

当日の青年部会では、B社の経営者による講演の後に、筆者が講評を行ったが、そのさいには2018年9月10日付で京都市中小企業未来力会議から発表された「京都・地域企業宣言」を紹介した（末尾資料を参照のこと）。中小企業には脚注1でも記したように、消極的なイメージを伴うことが多い。青年部会担当者の方々は、青年部会会で上のような主題を設定した理由は、まさにこの消極的なイメージを払しょくしたいというねらいがあった。ほぼ同じ時期に発表された「京都・地域企業宣言」のなかでも、「私たちは、規模を基準とする中小企業ではなく、人と自然と地域を大切に、地域に根ざし、地域と繋がり、地域と共に継承・発展する『地域企業』である」という表記からも明らかのように、「地域企業」としての中小企業の役割を積極的に評価していこうとしている。しかしながら、青年部会担当者はこの「京都・地域企業宣言」を意識したわけではなかった。このような京都地域において、「地域企業」という表現を使っていこうとする機運が実践上で高まっていることは興味深い点である。なお京都市中小企業未来力会議とは、2016年度に創設された、若手・中堅経営者が中心となり、経済団体や金融機関などのアドバイスを得ながら、「幅広い業種の垣根を超えた新たなビジネスの創出を目指し」、自ら行動するとともに、「実効性のある振興策を議論、提言」する機関である。2018年12月に開催された同会議において、同会議の名称が「京都市地域企業未来力会議」と変更された。

次に、A社とB社のそれぞれの従業員について、2社間の従業員の認識ギャップの違いをみていく。A社とB社は、従業員の規模も経営者の年齢もほぼ同じである。企業属性として異なっているのは、業種、創業年、経営者が創業者であるか後継者であるか、である。これらの企業属性のうち、業種による違いが、企業組織の特性にいかなる影響を及ぼすかについては、調査項目からは検討することができない。業種以外の企業属性である創業年と経営者が創業者か後継者であるかについては、A社とB社を比べて、前述のとおり、B社の経営者は創業者であり、A社と比べて操業歴も比較的短い。経営者自身は、従業員の労働環境に配慮する余裕はなかったというが、経営者の認識に反して、「社長と社員の壁がない」、「社員間でコミュニケーションがとれている」、「社員同士の結束が深まっている」、「社員1人1人の状況を把握できている」、「会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある」、「アットホームで雰囲気が良い」、「社員が大切にされている」といった項目において、A社よりも平均値が高く、統計的に有意な差がみられた。これはなぜであろうか。

B社は、創業前は先物取引の仕事に従事していたが、労働時間も長く、縛られた働き方に嫌気をさしていた。経営者の父親は2代目であったが、従弟も会社におり後継者として働いていたため、自分自身の居場所はなかった。そうしたところ、経営者の祖父の同業者がちょうど廃業をするということで設備などを譲り受け、創業にこぎつけた。創業当初から金属加工を行っていたが、調子よく売上を伸ばしていき、新しい設備も積極的に導入しながら、2期目で第2工場を設立したときにはOEM生産により部品の製造も行うようになった。さらに5期目には、第3工場を設立し、6期目には中国との取引を開始し、中国から安い部品を仕入れて、日本で組み立てるようになった。7期目に現在の上鳥羽に本社を移転し、このタイミングで3つに分散していた工場を統合させた。しかしながら、8期目の2003年のときに、医療機器の大型案件を受注した。何とかできるだろうという見込みがあり、中国の他社に外注することで対応しようとしたが、失敗し、損害を被ることになった。お金を失っただけでなく、経営者としての自信も喪失することになった。この中国事業の失敗の経験から、根拠のない自信を見直し、なぜ社員がこういう状況でも会社に残ってくれているかを再考し、これまで言ってもわからないだろうと考えていた従業員とのコミュニケーションを積極的にとり、従業員とのベクトルを合わそうとしたのである。

このようなB社の経営者が、中国事業の失敗という経験をしたことで、組織成員である従業員とコミュニケーションを積極的にとるようになったことが、B社の労働環境の相対的な良さにつながっていると推察される。このようにとらえると、中小企業の労働環境がなぜそのように実践されているかということは、B社の経営者が創業者であり、あるいは操業歴が比較的短いなどといった企業や経営者の属性が影響しているというよりかは、当該中小企業の経営者が従業員との関係をどのようにしていきたいかという行動意識に起因していると考えられる。さらにここで重要なことは、B社の経営者が従業員との関係を重視していくようになったのが、中国事業の失敗という経験に起因しているという点である。事業体としての限界に直面したさいに、経営者が事業体を担う従業員との関係を改善していくようになるということは、中小企業が成長していくそのプロセスのなかにおける質的発展の1つの要素として重要な点であろう。この点、A社は、

B社のような事業体としての限界に直面した経験が少なくともいまの経営者の代になってからはなく、このことが2社の企業間の相違としてあらわれていると推察される。

V 小 結

本稿は、2018年度に実施した中小企業2社への労働環境にかかるアンケート調査に基づき、中小企業の労働環境に対する経営者と従業員との間、さらには2社間の従業員の認識ギャップを明らかにすることを目的としていた。

検討の結果、次のことを指摘することができる。まずA社は、経営者が若手人材の確保に取り組むなかで積極的に社員との壁をなくそうとしており、また印刷業が構造不況業種であることに鑑み、経営者は積極的に新しいことにチャレンジしようとしているのに対して、従業員はそれほど認識していなかった。次にB社は、金属加工業であり、創業者である経営者の認識に反して、従業員は、むしろ経営者の意図をくみ取り、いまの労働環境を積極的に評価するだけでなく、自発的に労働環境を良くしようという姿勢さえ持ち合わせている。

最後に、2社間の従業員の認識ギャップであるが、B社のほうがA社と比べていくつかの項目において平均値が高いことが明らかとなったが、これはB社が事業体としての限界に直面したさいに、経営者が事業体を担う従業員との関係を改善していくようになったことが起因していると推察される。A社は、B社のような事業体としての限界に直面した経験が少なくともいまの経営者の代になってからはなく、このことが2社の企業間の相違としてあらわれていると推察される。

本稿でとりあげたアンケート調査の項目策定や、調査から得られたデータの分析、また分析結果の解釈など、不十分な点は多くあろう。しかしながら、中小企業の労働環境にかんして、従業員の生の「声」を拾い上げていくことは必ずしも容易なことではない。そうした意味において、本稿で紹介したいくつかのデータは、まだ社会に一般的に知られていない中小企業の労働環境の生のデータであるというデータであり、本稿の資料的価値は大きいと考える。本稿の公表をきっかけに、中小企業の労働環境の事実の一部が広く知られていくとともに、中小企業の労働環境に関連したさまざまな研究が進展していくことを期待したい。

VI 補論－中小企業で働く（2017年）2017年度における 大学生を対象とした調査から－

本節では、中小企業で働くという求職する人材、とくに、大学生が中小企業で働くということに対していかに考えているかを明らかにするために実施した調査から得たデータを紹介する。ここで紹介するデータは、2017年11月8日に、同志社大学商学部設置されている秋学期開講科目「中小企業論2」を履修している大学生に質問したさいの回答に基づいている。回答した学生の数は、394名であった。

これらの学生に対して、以下の3つの問を尋ねた。1つは、「あなたは将来的に大企業よりも中小企業で働きたいと思いますか。」(問1)である。ここでは、「そう思う」(5点)から「そう思わない」(1点)までの5点尺度で尋ねた(これら以外は、「どちらかと言えばそう思う」(4点),「どちらとも言えない」(3点),「どちらかと言えばそう思わない」(2点)とした)。2つは、「問1のように答えたのはなぜですか。その理由をできるだけ詳しく教えてください。」(問2)である。3つは、「あなたが働きたいと考える中小企業とはどのような中小企業ですか。できるだけ詳しく教えてください。」(問3)である。

ここで紹介するデータは、すでに拙稿(2018b)で紹介済みであるため、ここでは要点のみ紹介する。問1の回答結果を示したものが、表6である。表6によれば、中小企業で働きたいと思わない学生が、全体の46.7% (「そう思わない」+「どちらかと言えばそう思わない」の和)となっている。また、中小企業で働きたいと思う学生が、全体の17.2% (「そう思う」+「どちらかと

表6 問1の度数分布表

	度数	パーセント	有効パーセント
1 そう思わない	45	11.4	11.4
2 どちらかと言えばそう思わない	139	35.3	35.3
3 どちらとも言えない	142	36.0	36.0
4 どちらかと言えばそう思う	47	11.9	11.9
5 そう思う	21	5.3	5.3
合計	394	100.0	100.0

表7 問1と性別のクロス表

	性別		合計
	1 男性	2 女性	
1 そう思わない	28	17	45
2 どちらかと言えばそう思わない	89	50	139
3 どちらとも言えない	69	73	142
4 どちらかと言えばそう思う	21	26	47
5 そう思う	19	2	21
合計	226	168	394

表8 問1と学年のクロス表

	学年						合計
	2	3	4	5	6	7	
1 そう思わない	2	32	8	3	0	0	45
2 どちらかと言えばそう思わない	6	118	12	2	1	0	139
3 どちらとも言えない	8	112	14	7	0	1	142
4 どちらかと言えばそう思う	1	32	10	3	0	1	47
5 そう思う	4	9	5	3	0	0	21
合計	21	303	49	18	1	2	394

言えばそう思う」の和）となっている。「どちらとも言えない」は36.0%となっている。

次に回答者の属性を性別にみたものが、表7である。性別にみた回答割合は男性の方が多いことがわかる（表7）。また、回答者の属性を学年別にみたものが、表8である。

4年生以上の回答については、拙稿（2018b）で紹介済みであるため、2年生および3年生の回答を、問1と問2に限定し、末尾の資料に掲載している。

付記

本稿の内容の一部は、2018年6月20日に実施した、京都中小企業家同友会南支部と同志社大学商学部関ゼミとの共同企画による南支部の支部例会での取組内容に基づく。京都中小企業家同友会南支部と同志社大学商学部関ゼミとは、定期的に交流を重ねながら、共同で支部例会を企画してきた。上記の支部例会以外にも2018年11月13日に、中小企業による若手人材の採用と共有をテーマにした例会を企画・運営した。2019年度においても、かたちを部分的に変えながら、定期的な交流を継続して行くことを予定している。

2018年6月20日当日は、南支部の支部例会の趣旨ならびに企画に基づき、筆者がコーディネートするかたちで、A社とB社の調査結果をそれぞれ対比させながら公表した。なおA社とB社の調査結果については、調査にご協力いただいた従業員の方々はもちろん、パネラーとしても登壇していただいたA社とB社のそれぞれの経営者にも、例会当日まで公表しなかった。A社とB社の経営者は、上記の例会の企画・運営に中心的な役割を担うことで、アンケート調査にご協力いただいただけでなく、従業員の方々にも調査の段取りを行っていただいた。両者の経営者ならびに従業員の方々に、この場をお借りし感謝申し上げたい。なお本稿でありうるべき過誤は、筆者の責に帰することを明記する。

参考文献（アルファベット順）

- 兵庫県商工会連合会・阪南大学（2013）『中小企業のワーク・ライフ・バランスに関する研究報告書－調査から垣間見る取組の現状と課題－』
- 関智宏（2013）「従業員重視の中小企業経営」労務理論学会編『中小企業における経営労務の課題』晃洋書房，pp.53-68
- 関智宏（2017a）「中小企業で働く－大学生が中小企業で働く際に求めること－」同志社大学商学会『同志社商学』第68巻第5・6号，pp.103-140
- 関智宏（2017b）「中小企業をイメージする－2013年度における大学生を対象とした調査から－」同志社大学商学会『同志社商学』第69巻第1号，pp.85-148
- 関智宏（2018a）「中小企業をイメージする（2014年）－2014年度における大学生を対象とした調査から－」同志社大学商学会『同志社商学』第69巻第4号，pp.61-88
- 関智宏（2018b）「中小企業で働く（2017年）－2017年度における4年生以上の大学生を対象とした調査から－」同志社大学商学会『同志社商学』第70巻第1号，pp.105-131
- 関智宏・周雯（2018）「中小企業の労働環境－2012年度に実施したアンケート調査に基づく経営者と従業員の認識ギャップ－」同志社大学商学会『同志社商学』第70巻第2号，pp.351-366
- 関智宏・木下和紗（2018）「『社会的』中小企業の経営実践－京都市内の中小企業をケースとして－」同志社大学商学会『同志社商学』第70巻第3号，pp.391-405

参考
従業員総数の比較

項目	対象	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率 (両側)	平均値の差
社長と社員の壁がない	A 社	19	2.47	1.307	-2.585***	0.014	-0.935
	B 社	22	3.41	1.008			
社員間でコミュニケーションがとれている	A 社	19	2.53	0.964	-3.576***	0.001	-1.156
	B 社	22	3.68	1.086			
社員同士の結束が深まっている	A 社	19	2.16	0.898	-3.236***	0.002	-1.024
	B 社	22	3.18	1.097			
社員が大切にされている	A 社	19	2.84	1.302	-1.811**	0.078	-0.703
	B 社	22	3.55	1.184			
社員1人1人の状況を把握できている	A 社	19	1.95	0.621	-3.673***	0.001	-1.007
	B 社	22	2.95	1.046			
人間として成長できる環境がある	A 社	19	3.47	1.020	0.958	0.344	0.337
	B 社	22	3.14	1.207			
仕事や自社の商品に誇りを持っている	A 社	19	3.63	1.116	-0.014	0.989	-0.005
	B 社	22	3.64	1.002			
仕事を楽しめている	A 社	19	3.32	0.946	-1.048	0.301	-0.321
	B 社	22	3.64	1.002			
仕事にやりがいを感じている	A 社	19	3.53	0.905	-0.235	0.815	-0.065
	B 社	22	3.59	0.854			
会社にかかわるすべての人を大事にしている	A 社	19	3.26	1.195	-0.514	0.610	-0.191
	B 社	22	3.45	1.184			
会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある	A 社	19	2.42	1.071	-3.039***	0.004	-1.079
	B 社	22	3.50	1.185			
アットホームで雰囲気が良い	A 社	19	2.58	1.017	-3.896***	0.000	-1.285
	B 社	22	3.86	1.082			
新しいことにチャレンジしている	A 社	19	3.53	1.172	-0.665	0.510	-0.246
	B 社	22	3.77	1.193			
経営理念が明確である	A 社	19	3.26	1.327	-1.215	0.232	-0.464
	B 社	22	3.73	1.120			

注：***5% 有意, **10% 有意

B 社雇用形態別比較

項目	対象	度数	平均値	標準偏差	t 値	有意確率 (両側)	平均値の差
社長と社員の壁がない	正規	13	2.77	0.832	-3.989***	0.001	-1.331
	非正規	10	4.10	0.738			
社員間でコミュニケーションがとれている	正規	13	3.46	0.877	-0.972	0.342	-0.438
	非正規	10	3.90	1.287			
社員同士の結束が深まっている	正規	13	2.77	0.927	-2.245***	0.036	-0.931
	非正規	10	3.70	1.059			
社員が大切にされている	正規	13	2.92	0.862	-3.866***	0.001	-1.477
	非正規	10	4.40	0.966			
社員 1 人 1 人の状況を把握できている	正規	13	2.46	0.776	-3.446***	0.002	-1.238
	非正規	10	3.70	0.949			
人間として成長できる環境がある	正規	13	2.62	0.870	-2.985***	0.007	-1.285
	非正規	10	3.90	1.197			
仕事や自社の商品に誇りを持っている	正規	13	3.15	0.899	-2.915***	0.008	-1.046
	非正規	10	4.20	0.789			
仕事を楽しめている	正規	13	3.31	0.855	-2.054**	0.053	-0.792
	非正規	10	4.10	0.994			
仕事にやりがいを感じている	正規	13	3.38	0.768	-1.502	0.148	-0.515
	非正規	10	3.90	0.876			
会社にかかわるすべての人を大事にしている	正規	13	3.15	1.214	-1.348	0.192	-0.646
	非正規	10	3.80	1.033			
会社全体に会社を良くしようという雰囲気がある	正規	13	3.15	1.144	-1.819**	0.083	-0.846
	非正規	10	4.00	1.054			
アットホームで雰囲気が良い	正規	13	3.54	1.050	-1.508	0.146	-0.662
	非正規	10	4.20	1.033			
新しいことにチャレンジしている	正規	13	3.23	1.166	-3.031***	0.006	-1.269
	非正規	10	4.50	0.707			
経営理念が明確である	正規	13	3.54	1.266	-1.197	0.245	-0.562
	非正規	10	4.10	0.876			

注：***5% 有意, **10% 有意

※正規と非正規の度数が上の B 社の従業員数と一致していない

京都・地域企業宣言

企業には理念が必要である。悠久の歴史の中で、多くの企業が生まれ、発展してきた京都では、理念が社是、社訓として重んじられ、私たちの礎となっている。

私たちは、規模を基準とする中小企業ではなく、人と自然と地域を大切に、地域に根ざし、地域と繋がり、地域と共に継承・発展する「地域企業」である。その自覚と誇りを胸に、京都から日本、世界、そして未来を見据え活動していくことをここに宣言する。

国内外から人や物が集い、伝統と革新が融合しながら新たな文化を創造し、千年を超えて都市の機能が継続してきた京都。私たちの先人は、経済的価値と共に文化的価値を大切に、衣・食・住をはじめとする生活文化、地域が受け継いできた祭祀などに彩られる市民の暮らしを支えてきた。そして、伝統産業から先端産業、農林業、観光や情報をはじめとするサービス業などあらゆる産業やその担い手を育み、社寺や学術・研究機関との協働によって数々のイノベーションを生み出してきた。

今、人口減少社会の到来、地域コミュニティの弱体化、競争環境の激化といった、数々の困難や時代の転換点に直面している。

今こそ次の千年に向けた出発点であり、共に社業の発展を通じて地域に貢献し、しなやかな強さで京都の未来を切り拓く力、すなわち「未来力」を発揮するときである。

先人の理念である“先義後利”や“不易流行”をはじめ、京都に育まれてきた精神文化を大切に、あらゆる連携によって地域を支え、京都を拠点に日本の活力源となり、共生社会の担い手として、世界の人々の笑顔あふれる未来を創造していくことを誓う。

わたしたち地域企業は、

- 一、 自助努力や各企業の連携・融合により 社業の持続的発展を追求する。
- 一、 生活文化の継承、安心全、地域コミュニティの活性化に貢献する。
- 一、 働きがいや社会に貢献する喜びを 大切にし、若者をはじめ多様な担い手の活躍を支援する。
- 一、 受け継いできた文化や知恵、技術を学び、新たな価値の創造に挑戦する。
- 一、 森や水の恵みを活かし、暮らしを支える豊かな自然環境の保全に寄与する。

平成30年9月10日

京都市中小企業未来力会議

資料（補論）

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
1	2	3	4	中小企業では、大企業に比べてやはり従業員が少ない方であるため、さまざまな仕事を任せてくれる機会が多く、若手が活躍できそうだからである。そして、2点目は、組織が比較的小さいため、新人であっても、自分自身の声がトップの方に届きやすく、1人1人の優秀な社員の存在を大切にすることができると考える。大企業であればあるほど、ごく一般の社員の声がトップに反映されにくく、特に若手の声である。そうなると、上の管理層の声ばかりになってしまい、新たなアイデアなどが発覚せず、事業革新できず、時代の流れに遅れてしまう可能性もある。
2	1	3	2	中小企業をそこまで知らないから。世の中でよく聞くのは大企業ばかりだから。
3	1	3	3	先日の中小機構の方による講義や普段の授業を通して、中小企業の魅力を確認に感じるが、同志社大学に通ったからには大企業に就職したいという思いもあるから。しかし、決して中小企業を批判しているわけではなく、中小企業は従業員と資本金のどちらかを満たしていれば成立するので、今まで知らなかった中小企業ならではの上司との近さや、新鮮な事業に興味湧き、この授業も真剣に学んでいる最中であるため、今後も勉強していきたいと思う。
4	1	3	3	中小企業とはとても魅力があると思う。中小企業は幅が広く、さまざまな分野に注力をしており、将来にやるべきことがまだはっきりと決まっていない自分には、そういった意味ではやりたいことが見つければとことん打ち込むことができると考える。しかし、それが給料であったり、勤務体系であったりは中小企業が一律して自分の望むものではないため、どちらとも言えないというものに回答をした。中小企業のなかには魅力のあるようなものが多いと感じるが、そこに就職するかと言われるともっと他のことを考える必要があると考えた。
5	2	3	3	働く会社を選択するうえで、私は「会社への所属意識をしっかりと持てるかどうか」と「福利厚生がしっかりとしているかどうか」の2点を重要視したいと考えています。まず「会社への所属意識を持てるかどうか」については、これは仕事にやりがいを持つことができるかという点と、同義だと思えます。大企業と比べて従業員数が小規模である中小企業では、1人あたりのこなさなければならぬ仕事量が多くなるため、さまざまな経験を積むことができると考えられます。また、同僚が少なく人事評価が絶対評価となるため、正当な評価を受けていると感じやすくなるのではないかと思います。このように、さまざまな経験を積み、正当な評価を受けることができることが、仕事へのやりがいにつながるのではないかと思います。その点においては中小企業の強みではないかと考えます。次に、「どの程度福利厚生が充実しているか」についてですが、この点においては、大企業の強みではないかと考えます。例えば、突然病気になる、長期間休職せざるを得ない状況に陥った場合、その間や復帰する際の保障がどれだけ充実しているかによって、その後安定した生活を送っているかどうかが決まってくると思います。そういった制度や保障が充実している会社となると、やはり大企業が安定していると思われる。以上の点から、私が企業を選ぶうえで重視する点は、大企業か・中小企業か、という視点からだけではしるべきではないかと、どちらとも言えないと回答しました。
6	2	3	2	
7	1	3	2	中小企業のアットホームな雰囲気や、関係はいいと思うが、大企業と中小企業ではやはり給与の差が大きく、将来倒産してしまう危険性も中小企業の方が高いと思われ、それに対し大企業では安定性もあるから。
8	2	3	2	私は将来的に海外勤務ができる仕事に就きたいと考えているため、海外展開の規模が大きく、海外に行けるチャンスが多い大企業での就職を目指しています。しかし、中小企業で働くことでしか得られないスキルもあり、自分自身の成長をより感じられるのは企業規模の小さい中小企業だとおもうので、そのようなメリットも踏まえて中小企業も選択肢の1つに入りたいと考えています。
9	2	3	4	まずは、大企業に絞ってしまうよりも、職業選択の幅が広がるということです。大企業というブランドで決めるよりも、自分のやりたいことを見つけられるかもしれないし、自分の意見や考えも中小企業の方が反映されやすいだろうし、私はそれが仕事のやりがいにつながるかと考えています。また私は卒業後は田舎の実家に帰るつもりでいるので、その地域に貢献できるような仕事ができるのも中小企業でも良いと思える理由の1つです。私はあまり大企業か中小企業のどちらかにこだわるといっては、自分にとってやりがいのある仕事であるかどうか重要であるとと考えています。
10	2	3	3	大企業は規模も大きくネームバリューもあり、雇用も安定していて魅力的だが、会社の歯車になってしまふデメリットもある。中小企業は規模や従業員数で大企業に劣るが、IT企業や宇宙産業など成長の可能性がある企業も多いので、その成長に自分も関わってみたいと思う。大企業や中小企業で判断するよりも、自分のやりたいことや成長できる企業かどうかで決めたいから。
11	2	2	2	ビジネストップクスの授業で中小企業を訪問する際、さまざまなものを作っている中小企業を見た。中小企業でもものを作ったり、それらを大企業に売ったりすることもあり、中小企業で働くほうが規則的で給料が高そうイメージがあったため、中小企業よりもどちらかという大企業で働きたいと思った。
12	1	3	2	自分も含め社会に大企業に勤める方が優秀だという、風潮があり、新卒で中小企業に勤めると相対的に他の企業へ転職しにくいと思うため。
13	1	3	2	現在就職活動をしているが、大企業がすべてと考えていた。目指しているのはコンサルタント系の企業や、リクルート社である。リクルートを選ぶ理由としては、将来独立する人が多い点である。私自身も、将来独立しようと考えており、両親が昔から自営業を営んでいて、その働き方を見てきたので、影響された。また、将来親の会社を継ぐ形になり、そのために社会に一度出て、広い視野と考え方ができるような人材になっておきたいと考えたので、大企業であるリクルート社に行きたいと考えた。だが、大企業が一番だとは言えないことに気付いた。ベンチャー系も魅力ではないのかと感じ、その理由としては、若いうちから裁量権を持つことが可能であるからである。大企業においては、それを持つことは若いうちにはかなう可能性もない。自分の成長率で見ると、ベンチャーの方がいいのかもしれないと考える。また、大会社に偏りがちな理由としては、独立するにあたって、就いていた会社を看板として掲げることでもできるからである。以上の点で、大企業に偏りがちである。
14	1	3	2	以前のゲスト講師の方の話されていた通り、中小企業にはそこにしか作れないものや、そこでしかできないことがあると自分は感じている。しかし、大企業においてもそれは同じで、生活するうえで大企業であることによるメリットが多いと考えるため。
15	1	3	1	私は将来の夢に金融業界に入り、お金の面から社会を支えたいと考えている。社会を大きく動かせる仕事につきたいので、やはり大きな仕事や、金額を扱える大企業に入りたい。中小企業は下請けで大企業を支えているが、私は社会を支える大企業で仕事をし、その分に見合った報酬をもらいたい。
16	2	3	4	私は絶対に大企業で働きたいという強い決意があるわけではないが、今まではただ漠然とみんなも知っているようなネームバリューのある大企業に就職できたらいいなと考えていた。しかし、中小企業論の講義を受けているうちに中小企業には大企業にない良さがたくさんあるということを知った。大企業は、ネームバリューがあるだけではなく、安定しているというイメージもあり、また組織として大きいため、中小企業と比べ強いというイメージがあった。しかし、社員数が多いため、自分のやりたいことができなかったり、自分の存在意義を見出せないのではないかとイメージも持っていた。一方中小企業は、大企業と比べて社員数が少ないため自分にしかできないような仕事をすることができたり、地域の人などにより密接に関わった仕事をする事ができる。また、中小企業は社内教育などもしっかりと行っていて、一人一人を見てくれたり、社員同士も関わる機会が多いというようなイメージがある。一人一人の責任や負担は中小企業のほうが多いのかなと感じるが、私は、自分のやりたいと思ったことを実現させてくれて、できるだけ地域の方々や社員同士も近い環境で仕事をしたいと考えているので、どちらかといえば中小企業で働きたい。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
17	2	3	4	大企業で会社の歯車のひとつとして働くよりも自分が主体的に動いて働きたいと思うので中小企業のように魅力を感じました。また、同じ作業を繰り返すことを苦痛と思わないし、むしろひとつのことを突き詰めることのほうが好きなので大企業よりも中小企業のほうが魅力的ではないかと思いました。
18	2	3	3	私が、就職する際に企業を選ぶ判断材料は、私の価値観やキャリアアンカーの性質がその企業の経営理念や価値観に合うかどうかなので、大企業か中小企業かは関係がないと考えてからである。もし、合う企業が大企業ならば大企業にいき、中小企業ならば中小企業にいくと思う。私のキャリアアンカーはCHの不可能と思えるような障害を克服すること、解決不能と思われてきた問題を解決すること、極めて手ごわい相手に勝つことに挑むことを好む特性である。私は、自分では少し乗り越えられるかわからない課題に挑戦している過程がすごく楽しいと感じ、またそれが結果として成功したより達成感を感じる。なので、困難な課題に、立ち向かい自分が挑戦したいと思ったことに率先して手を挙げず、そのことができるかできないかは自分の実力次第だが、そのしたいという声が届いてくれるような企業で働きたいと思う。また、私は、SEの傾向も強く、人から感謝されることが、普段の日常からでも嬉しく、自分の価値が見いだせる。そのため、就職選びの際は、人を幸せにしたり、人の生活を豊かにしたり、より快適にしたり、過ごしやすくなるようなサービスを提供する業種で、それが経営理念として組織全体に広がっているような企業を選びたいと考えている。この価値観が一致する会社であれば、大手だろうが中小だろうが関係ないと思っているので、どちらともいえないにした。
19	1	3	2	やはり大企業との比較になってしまうのですが、中小企業は大企業に比べて経営規模が小さく、資本なども少ないので企業の存続の可能性が少なくなってしまうと思います。また、社会保障などの保障面も大企業に比べると充実していないのかと思います。中小企業にも安定した素晴らしい企業はたくさんあると思いますが、やはりそうした懸念点が多く躊躇われてしまいます。また、自分は公務員が第一志望であることも理由の1つです。
20	1	3	3	現在、就職活動を未だしておらず自分がどちらに魅力を感じているか分からないから。大企業には大企業にしかない魅力があるはずだし、中小企業には中小企業にしかない魅力があるはず。更に、それぞれの企業によって良さはそれぞれなのでそこに優劣をつけてどこで働きたいかというように選ぶことはできない。
21	2	3	3	大企業には大企業の魅力があり、中小企業には中小企業の魅力がそれぞれあるため、どちらで働きたいかまでははっきり考えていません。大企業はやはり知名度も高く世間への影響力が目に見えるため、実際に働くとなると大企業の方がイメージしやすくて憧れを持ってしまいます。一方で、中小企業は大企業が存続していくためには無くてはならない存在であり、また、小規模なため企業同士や人同士の関わりが密接といったイメージがあり魅力があります。これから就職活動をしていくにあたって、それぞれのメリットデメリットを比較し広い範囲で検討して企業で働くか中小企業で働くか決めていきたいと考えています。
22	1	3	2	終身雇用制度が崩壊しつつある今、仮に転職するの必要に迫られた場合、大企業という肩書きがあった方がよいと思うから。
23	2	3	3	大企業よりも中小企業の方が絶対いいと思う決め手がないから。夏季休暇中のインターンシップやこの講義を通して、規模が小さいというだけで悪いものであるというのにつながらないことは明らかになり、持っていたマイナスイメージは払しょくされた。さらに、中小企業のネットワークはとて広く、数社が協力して大企業に負けず劣らずのモノやサービスを作り上げていることも理解した。今後将来を考えていくうえで、中小企業を最初から視野に入れたいということはなくなった。しかし、だからと言って大企業に劣っている点があるわけではない。したがって、大企業よりも中小企業で働きたいという決め手にはつながらない。
24	2	3	3	大企業にも中小企業にもそれぞれ魅力があり、今の段階では選べないから。大企業の事業の大きさやネームバリューにも惹かれるし、規模が相対的に小さい中小企業ならではの人と人との距離の近さや自由度、そして柔軟性の高さにも惹かれる。以前までは、世間に名が知れているような大企業で働いてみたいという思いが強かったが、現在は中小企業の採用枠が多い売り手市場であるため、確実な道を進みたがる性格の私は、余計にどちらで働くか迷ってしまっている。また、自分のやりたい仕事がいまだにはっきり定まっていない。
25	1	3	2	比較的メジャーな企業に入社し、最先端の環境でさまざまな経験や人間関係を得たいから。セカンドキャリアでの中小企業選択はありうる。
26	1	3	1	日本企業の体質上中小企業の立場が弱い立場にあるため
27	2	3	3	大企業で働いてみたいという気持ちはやっぱりあるが、授業やゲストスピーカーの話を聞くにつれて、中小企業が規模が小さいというだけでなく、地域社会に密着したり等中小企業でしかできないような仕事ができそうだとことがわかり、中小企業も視野に入れるようになったため。
28	2	3	2	中小企業をまだ身近に感じられないから。
29	2	3	3	大企業では大規模での仕事に関わることができる一方で中小企業では自由な動きができる働き方をすることができるので、どちらがいいかは断定できないため。
30	1	3	3	現在自分が働きたいと思っている職場がどちらにも当てはまらないため
31	1	3	3	今まで漠然と大手の方がいいとおもっていたけど、最近、必ずしも大手の方がいいとは限らなくて、中小の方がのびのびと自分の好きなことをできるとおもってきていて、今悩んでいるから
32	1	3	1	中小企業は大企業と比べて資産が限られており、大企業のように大きな事業に挑戦することができないためです。また、私はグローバルな事業展開をしたいと考えており、中小企業では大企業のようなグローバル展開が困難であるためです。
33	1	3	2	中小企業の多くは、大企業（アセンブラー）からの外注の元で、取引を受注していく受注企業（サプライヤー）の立ち位置になってくると思います。その中で取引が過度なものとなり、下請けという立場になることも少なくないと思います。現在では、円高、国内市場の低迷といった点から、大企業の海外進出、生産が多くなりました。そんな中で今後の国内中小企業について考えた時、厳しい時代になっていくと感じたのでこうした答えに至りました。
34	2	3	1	中小企業といっても、規模も知名度もさまざまですが、基本的に大企業も中小企業の内定もあるならば、私は制度や財務状況が安定している大企業を選ぶと思います。しかし、私は放送局で働きたいのですが、テレビ局は従業員500人前後で中小企業です。業界や業種にもよりますが、2つを横並びにして選ぶならば、中小企業よりも大企業を選びます。
35	1	3	2	私は現在、就職活動をしています。中小企業は全く範囲に入っていません。なぜなら、私は将来的に国や世界を変えるような仕事をしたいと思っています。特に現在は、不動産業界での仕事をしたいと考えております。国や世界を動かすような企業となると、大企業が最も国や世界に良い意味や悪い意味においても影響を及ぼすのが、早いのではないかと考えるからです。
36	1	3	3	
37	1	3	3	大学に入るまでは何の気なしにとりあえず大企業を目指そうかと思っており、中小企業の特徴や魅力などは考えたことがありませんでした。しかしゼミで関わることで職場の風通しの良さや密な人間関係の様子など、働きやすそうな環境が整っている中小企業も多くと知りました。ただ、資金繰りや福利厚生の実質など課題もある中小企業も多いので、中小か大企業かどちらか選ぶのは難しいです。
38	2	2	2	大企業に就職できれば、潰れる可能性は中小企業よりも低いし、給料もいいと思った。しかし、最近大企業に就職するよりも中小企業で高いポジションにつけばそっちの方が給料もいいのではないかと、会社の駒になることもあまりなく、意見が通りやすくなるのではないかとも思う。大企業で役職につけるのはほんの一握りだし、女がなれるともあまり思えない。しかし、自分のプライドが邪魔をする。どこに就職されるんですか？と聞かれて誰もが知っている大企業の名前を言いたいと思っています。そのため、どちらかというと思わないに回答した。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
39	1	3	2	・経営が不安定というイメージを払しょくできないから ・キャリアを積んでいっても業務内容に大きな変化がなさそうだから ・できること、やれることが限られていそうだから
40	1	3	2	一般的に中小企業よりも大企業の方が良いとされている事実は授業で一概にそうではないと学んだ。しかしながら、将来の家族のための安定を考えると企業としての安定感の強い大企業に目を引かれてしまう。中小企業論では中小企業同士や、地域とのつながりによって中小企業は成り立っていると学び、連携しているどれか1つがやられてしまうと崩れてしまうような、少し脆い印象が拭えなかったからである。
41	2	3	2	今までの講義を通して、中小企業の仕事や、特にそれぞれの企業が得意な分野で協力し合って新たなビジネスを作り出しているという話にはとても興味を持ちました。しかし、私はまだ自分のやりたいことが明確ではないので、何かのスペシャリストになるより、もっと幅広くいろんな分野で仕事をしたいと思っているからです。
42	1	3	2	大企業と比べると給与や福利厚生面で劣っていると思うため。
43	2	3	3	大企業、中小企業という規模よりも自分にあって、やりがいを感じることができ企業に働きたいと感じます。大前提として、個人的にはある程度の給料は欲しいですが、社員とともに切磋琢磨し、自分が成長できる企業であれば、どちらでも良いかなと思います。また、下請けで給料が少ないことや転勤などがあることは避けたいです。よって、競争性が高く、人間関係、業務が大変そうな誰も知らない大企業でもなく、誰も知らない給料の低すぎる中小企業でもなく、自分を高めることができるならば良いと思います。
44	2	3	4	元々中小企業には興味があり、今夏にはインターンにも2社ほど参加した。その際、社内の雰囲気、社員の方々が穏やかに質問や行動の対応をしてくださったので、非常に良い印象をもっている。また、授業で下請けのことや、海外に事業が展開されているという話を聞いて、将来性は低いかなと思えたが、下請けとしてでも脳を使う立場として介入するなど、重要な立場になることも可能で、その工夫を凝らせば将来性が十分高いことなどを学んだので、働く場として考慮できる。しかし、福利厚生が大企業ほどしっかりしているかは、よくわからないのでどちらかといえば働きたいと回答した。
45	1	2	2	景気が安定しない中で、中小企業に就職することは、あまり収入が安定しないと思ったから。また、大企業に就職することで実績が詰めるので会社経営の時に役立つと思うから。
46	2	2	3	進路をしっかりと決められていないのですが、なんとなく大企業に就職したいと考えてました。なぜなら大企業の方が収入が高く安定していて世間体も良いと思ってたからです。しかし、中小企業の魅力も知れて、自分のやりたいことや経営理念から大企業中小企業関係なく就職したいと思うようになりました。
47	2	3	1	中小企業の方が人と人のつながりが深いと感じるしより信頼関係は築いていけそうだから。また、人数が少ない分、やらなければならないことも増えるが経験が積むことができし自分の存在価値を生み出せると思うから。
48	1	3	2	スケールの大きい仕事をしたいから。また、大企業に比べると中小企業は安定性の面で劣ると考えるから。
49	2	3	3	特別講義を受けることで、中小企業が無くなると、大企業の今の生産システムが成立しないということは今まで以上に理解できたと思います。企業数でみても、大企業に比べて圧倒的に中小企業のほうが多いということも理解できました。それを踏まえて考えた結果、仕事の幅が広がるのはやはり大企業ではないかと思えます。規模の小ささゆえに仕事で制限されることも多々あります。中小企業のように、大企業のサポートを行えるのも魅力の1つだと思いますが、せつかつ働くなら仕事の幅や可能性を広げたいという思いもあります。ですので、比べるとどちらとも言いえない選択しました。
50	1	3	2	社会への影響力が少ないから。仕事を選ぶうえで、社会や経済に与える影響を重視するため、中小企業では、規模が小さく、相手企業も少ない。そのため、大企業で働くことで、日本経済全体を捉えることができ、一社会人として、社会で活躍できる力を身に付けられると考えるからである。
51	2	2	3	中小企業論の授業をとるまでは大企業の数社しか企業名も知らなかったこともあり、大企業のほうが良いという印象を持っていましたが、中小企業論の授業で中小企業についてさまざまなことを知り、多種多様な中小企業と出会ったことで、中小企業へのイメージが変わり、中小企業には中小企業にしかない良さがあると分かると分かったから。中小企業は下請けで苦しい経営を強いられるようなイメージが強かったのですが、地域資源を活かしたり地域の活性化にもつながることを地域と連携して行う中小企業の存在や、自社で新しい製品やサービスを生み出している中小企業、中小企業同士で連携して規模の大きなことを行ったりする姿を学び、中小企業は小さな企業ではなく、それぞれに特色のある企業なのだと分かりました。特に私は地方出身なので地域密着や地域活性化にも興味があったのでまずは自分の故郷から、そのような事業を行っている中小企業はないか調べています。自分の故郷でなくても、過疎化の進んでいる地域を活性化させ、かつ企業もリターンを得られるような事業を行える企業はとても魅力的だと思い、将来働きたいと強く思いました。日本では質的な規定が用いられていないため、世界の土壌で戦っている企業でも中小企業に入れられてしまうことがあると聞いた時は、今まで自分が抱いていた中小企業のイメージとは何だったのだろう、そして中小企業の規定はこれでよいのかと思いました。しかしまだ大企業についても中小企業についても調べた中で、またどちらにもそれぞれ魅力があるように感じましたので、今回はこの回答を選びました。まだ企業について知らないことが多すぎるとこの授業で知ることができたので、中小企業についても大企業についてもそれぞれの特色や色味、また具体的にどんな企業があるのかをこれからもっと学んでいこうと思っています。
52	1	2	4	日本の経済を支えているのは大企業というイメージがあり、メディアに露出するのも、大企業だから仕方ないことだと思う。しかし、その大企業支えているのは中小企業であり、縁の下で力持的な存在である。私は、大企業に就職することも素晴らしいことだと思うが、中小企業で働くことも、とても素晴らしいことだと思う。なぜなら、中小企業で働くほうがやりがいを感じると思うからだ。中小企業では、私の推測ではあるが、大企業を目指して、成長しようとする向上心を持った社員が多く存在しており、そんな環境で働くことはやりがいを多く感じることができると考える。なので、私は中小企業で働いてみたいと思う。
53	1	3	4	自分の意見が反映されやすく、さまざまな経験を積んで、大企業に比べて他の社員との距離感が近いという印象から中小企業の方が自分にとっては働きやすいと考えました。確かに福利厚生や教育制度は大企業の方が充実しているとは思いますが、それゆえに身につくスキルが偏ったものになってしまったり、常に自分の評価が周りに影響してしまうといったデメリットも考えられます。幅広い行動範囲を持つのは中小企業だと思います。よって私は中小企業の方が魅力的だと考えました。
54	1	3	3	安定性があるとはいえないから
55	2	3	2	自分の選社軸に、「社会的知名度や規模感がしっかりしている会社」というのがあるから。なぜそう思うのかというと、将来のキャリアパスを考えた時にファーストキャリアではネームバリューのあるところに入って今後の転職などで少しでも負担が減らせるようにしたい。ただ、中小企業の中でもミドルベンチャーやメガベンチャーなら興味がある。ITはこれからどんどん成長していく業界であるし、またその業界に属している会社のほとんどがベンチャーであるからだ。
56	1	3	2	私は中小企業論を受けるまでは、中小企業は給料が低くて下請けを主に仕事としているような企業だという偏見を持っていた。しかし実際に受けてみてそこらの大企業よりやりがいがあり、給料もよく、働く環境も良い中小企業もあるとわかりこれから行う就職活動で中小企業も見る価値があるものだと思います。しかし、中小企業もピンからキリまであり、実際に働いてみないとわからないところがあるのもまた事実であると思う。そこで大企業ならインターンシップや説明会も多く行っており、OB、OGさんも多くいる場合が多い。そういった面で事前に多くの情報を得て実際に働いたらどうなるかの検討は多少はつくはずだ。これらの点から私は情報の多い大企業を中小企業よりは選びたいと思う。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
57	2	3	4	私が中小企業に働きたいと思う理由は、企業とともに自分自身も成長できると思うからです。それには中小企業の特徴が関わっています。よく大企業では、自分のやりたいことができないということを耳にします。せっかく名の知れた企業に就職しても自分がやりたくないことを嫌々やっても、自分自身が成長できるとは思えません。さらに中小企業は社員同士の距離が近いという印象があります。大企業に入っても人間関係が原因で辞めてしまえば意味がないので、社員同士が本音で話せるような環境の方が私は魅力的に感じます。もちろん大企業が上記のような環境ばかりであるとは言いきれませんが、新しいことに挑戦しようとする中小企業は事業内容においても自分自身においても成長できる場であり、とても好奇心がわくので私は中小企業の方にどちらかという魅力を感じます。
58	2	3	3	今まで大企業についてばかり調べてたのと、安定というイメージで中小企業との比較をしてしまっていたが、講義を聞いたり中小企業を調べると人間関係や仕事内容など人数が少ないからこそ得られるものもあると知ったから。
59	2	3	2	中小企業は大企業に比べてブランドが確立されていないため、さまざまな新しいことに挑戦していける点、また地域との連携を取り、地域密着型の経営者も貢献度が高く、多くのやりがいを得られる点においては魅力的だと感じた。しかし、大企業より経営基盤が弱い中小企業において、福利厚生が手薄であり、手厚くするのが難しいという。私は将来、福利厚生がしっかりしている企業で働きたいと考えているので、その点が、私が中小企業で働きたいと思えない最大の理由である。
60	2	3	4	本日の講義をきいて、今までは中小企業は下請けのイメージしかなかったのですが、インターネットの普及により中小企業が下請けから脱け出し、大手に頼らなくても消費者と直接交渉できるということを知ったため、中小企業という選択肢も良いなと思いました。しかし、まだまだ自分自身がどのような中小企業があって、何をしているのかというのを研究しきれないなので、必ず働きたいと思えない状況にあります。
61	1	3	2	ゲストスピーカーの方の講演を拝聴して、現在の中小企業の新連携などの取り組みを初めて知った。中小企業は経営基盤が大企業よりも弱いが、連携することでコストカットや無駄な労働の排除を行っており、画一的な業務だけでなく新しいビジネスモデルや商品を開発できるときて興味深いと思った。しかし、福利厚生や給与の面も含めて考えると、安定性に欠けるのは私にとってマイナスなので、私は中小企業に就職したいとはあまり思わない。
62	2	3	3	私はどちらもと言えない3番を選びます。なぜなら、中小企業へ就職することは大企業に就職するよりもし易いし、出世も早いと思います。中小企業で今後伸びていきそうな優良企業を選び、入社することができたのならそれが、1番の成功であると思います。しかし、大企業に就職したいという思いもあります。なぜなら、就活の軸として安定や社会貢献を重視しているからです。中小企業は、小さなことで経営不振や倒産になることが多いと思います。それに対して大企業は会社の基盤がしっかりしていることから、入社すると生活は安定すると思います。また名の知れた有名企業に勤めるということは、社会に貢献しているという実感を得やすいということも大企業に就職したい理由の1つです。どちらも魅力的な部分があると思うので、私はどちらもと言えない3番を選びました。
63	1	3	2	将来の収入を考えると、やはり大企業のほうが優っていて、関わる人においても成功した人や今後成功し得る人と関われることが挙げられる。また、キャリアの幅を広げられ、さまざまな仕事に関わることができるということに魅力を感じる。他方中小企業では、収入が大企業に劣らない企業もあるが、やはり総じて見ると大企業には劣っている。そして、仕事の幅もあまり広がるとは言い難い。以上の点より私は大企業に勤めたいと考えている。
64	2	3	3	就職について考える際に、企業規模に拘ったことがないため。
65	1	2	3	大企業には、やはりネームバリューの大きさがあり1つ1つの利益の大きさの規模が比べ物にならないと考える。また、安定した給料が保証されており倒産等の心配も中小企業に比べてないだろう。しかし、社員が多いことで不祥事に巻き込まれる可能性も高い。一方で中小企業には、大企業に比べて規模が小さいということをうまく利用し、新事業の発案から展開までの流れの良さや達成感・やりがい等をより多く感じると考える。大企業に比べて破産の可能性は高いが成功した際の成長率は大企業をも超えるだろう。自分自身、中小企業のことを深く知るまでは大企業に就くことを考えていたが、両者の良さやリスクを知っていくにつれていくとしっかり深めていく必要があると感じたからである。
66	1	3	4	
67	1	3	2	中小企業ではやる分野が限られていると思う。大企業では、多くの分野に分かれていて自分がやりがいを感じられる場所を模索できると思う。なので、大企業で模索してからでも遅くはないと思う。
68	2	3	3	まだ中小企業というの理解が浅いから。優良企業がたくさん存在していることは知っているが、実際に調べたりしたことがなく、具体的な良さがわからないから。
69	1	3	2	父親や母親が知らない企業に勤めると両親などに心配されることに加え、将来性も高いとは考えにくいから
70	1	3	2	私は、より多くの人に対して働きたいと考え、また雇用面や収入面の保障を第一と考えているため。
71	1	3	2	私は現在、就職活動の前段階としてインターンシップに参加していて重視している点は保障・安定という点である。現在、AIの進歩により今ある仕事が無くなっていくと言われている。インターンシップに参加する中でさまざまな企業がAIを導入し始め、入力や電話対応などの単調作業をAIに担当させ、人件費の削減と効率化を図っていると聞いてきた。今ところ、AIが使われている場所はそのような単調作業が行われている場所に限られているが、近年の科学技術の発展はめざましくこれからの発展の度合いなどは決してわからない。AIの発展だけではなく技術の発達によりレーザー手術の成功率が上がったことでメガネ業界の売上が落ちているなどこれからの技術の発展はさまざまな業界や人に影響を与えていくと考えられる。そのような時代において資金力が小さい企業であると、10年後20年後には存続しているかどうかかわらないと私は感じる。現段階では保障と安定を優先的に考えているので、中小企業で働くことはあまり望んではいない。しかし、先生の授業を聞く中で中小企業にも社会を支える地盤となるような企業であったり、明確な目標を持って活動している企業も数多くあるということ学ぶことができたので、視野は広く持ち今後の就職活動をしていきたいと考えている。
72	1	3	3	やはり大企業の方が雇用形態や給料、休暇制度などの分野や幅広い事業を手掛けていることなどにより、将来への安定性は中小企業よりも秀でていると思う。しかし、中小企業は社員数も大企業と比較すると少なく、専門の事業に特化しているがその分社員一人一人の意見を取り入れてもらいやすく、他社からの注文にも丁寧に応じるなどやりがいを感じることができるとは思わない。よって、就職に関して大企業と中小企業に対してどちらが良いか。などということはあまり気にならない。
73	2	3	4	まず自分が新入社員として会社に入った際、大事にしてくれそうだと考えたからです。新入社員が大企業ほど多くないことで、一人ひとりに合った教育を受けられたり、先輩や上司にも頼りやすかったり、アットホームな雰囲気の中で人間関係を構築していけるのではないかと考えます。また、自分自身が思いついた案や発想等も会社の上層部に伝えやすく、それが実際に採用されたりして、働くモチベーションにつながりそうだと思います。
74	1	3	2	一般的に大企業の方が中小企業に比べて透明性が高く、働きやすい環境にあると思うから。大企業は、株主、投資家、債権者を含めて社会全般から常に監視され評価されているので、法令、規則に違反する行動をする可能性は低い。労働環境も確立されていると考えるから。
75	1	3	3	中小企業に興味はあるがまだ大企業が安定的であるという感覚が強い
76	2	3	1	安定していないから。大企業ほどの福利厚生が見込めないから。どんな会社があるのかあまり情報がないから。
77	2	3	4	若いときから裁量が企業に比べて大きい点に惹かれる。また、地域と密着しているところも良いと思うから。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
78	2	3	2	私が、大企業に比べて中小企業に就職したいと思わない理由は3つの不安があるからです。1つ目は、企業としての安定性です。中小企業は企業の規模が小さいため、事業展開が少なく特有の技術に頼っているイメージがあります。変化して行く時代の中で、その変化に対応できるのか企業として生き残っていくのかという企業の安定性の面で不安があります。2つ目は、福利厚生が充実です。私は女性ですが結婚後も継続して働きたいと考えています。結婚・出産・育児のことを考えると、福利厚生がより充実しているのは大企業だと感じます。3つ目は、仕事のやりがいです。もちろん、中小企業・大企業に共通して仕事のやりがいは人それぞれであり、やりがいを感じることはできると思います。しかし、大きなプロジェクトを任せられたり、大きな改革に触れる機会がより多いのは、やはり大企業ではないかと考えます。このように、私は中小企業に対して3つの不安があるため大企業より中小企業に就職したいとは考えにくいです。
79	2	3	3	この中小企業論を受講するまで、中小企業とはどのような仕事をするのかというのを詳しく知りませんでした。まだまだ中小企業に関する知識が足りないと思うので、今の段階ではどちらで働きたいということは明確にはまだ分かりません。
80	1	3	2	中小企業だとどうしてもリスクが大きいので人生設計に組み込むには難しい。
81	1	3	4	グローバル化していく現在の中では、日本などの先進国には、もうサービスが行き届いており、新たなビジネスチャンスが生まれる機会が少なくなってきたため、これからの企業が目指すのは、発展途上国などへの進出であると考えている。そこで、大企業とその環境に素早く対応し、展開していくといったことができない。しかし、規模の小さい中小企業では、そういった事が可能になる。又、現在は今までよりニーズが多様かつ変化しやすいものになっているため、それらに対応しやすいのは、大企業よりも中小企業と考えるからだ。
82	2	3	4	地域に根ざした職につきたいから
83	1	2	3	大企業にも中小企業にも良いところ悪いところがあり、一概にはどちらが良いとは言えないと思ったからです。また大企業は世間的には良いイメージや長続きしそうなイメージをもち、中小企業はやりがいを持っているイメージをもち、どちらも良いイメージなので自分がやりたいと思った仕事なら大企業でも中小企業でもどちらでも良いと思いました。
84	1	3	3	1回で動くお金の大きさとスケール感など大企業でしか味わえない経験があると感じる一方で中小企業だと裁量権が与えられて仕事ができるイメージもあって、現状どちらが良いかは決まっていなかったから。
85	2	3	3	自分が働きたいと考えるのは、やはり安定している程度将来なくなってしまう可能性があまりないというイメージがある大企業である。しかし、最近では中小企業でも大企業のように安定して従業員の雇用もしっかりとしている大企業に引けを取らないという企業が増えてきているのも事実である。自分の働きたいと思えるような中小企業にこれから、もし出会えなければ、働きたいという考えにもなると思う。なので、今はどちらとも言えないを選んだ。
86	2	3	4	中小企業の方が、働いている人の社会に与える一人一人の影響が大きいと考えたからである。大企業は扱っている物事は大きいかもしれないが、その分それに関わる人も多くなっていく。それよりかは、規模が小さくてもいいから、自分に与えられる責任の大きさを重視する。それが毎日の仕事のモチベーションにつながるからである。
87	2	3	3	もちろん私には大企業で働きたいという大きな夢はあり、今でもそれは私の目標です。しかし、先日の外部の方の講義をお聞きして、中小企業というものに興味を抱きました。私は、中小企業についてなにも知らなかったのですが、講義を受けて中小企業の魅力に気づきました。中小企業というだけで規模の小さい会社なのかもしれないですが、持っている技術は大企業に劣らない部分もたくさんあります。そこが私が感じている中小企業の魅力です。なので、大企業で働きたいという夢も持つつつ、中小企業にも興味があります。
88	1	3	3	大企業の方が自分のやりたいことができると思うから。
89	2	3	2	規律とかがしっかりしているから。
90	2	3	2	私が企業選択において一番重要視しているのは、企業の理念や価値観に共感できるかどうかで、企業の規模は優先度が低いからです。ただ、他の条件が同じ大企業と中小企業があれば大企業を選ぶと思います。なぜなら、企業によって違うとは思いますが大企業にいた方が福利厚生が手厚そう、というイメージがあるからです。さらに、もし転職したり、結婚・出産後再就職しようと思ったときに元々大企業で働いていたほうが有利になりそうということも理由の1つです。
91	1	3	1	今後一人一人が自身の能力を高めていき、1つの職場にこだわらず働いていく時代であると考えています。また、現代の社会では本当の能力に関係なく、最初に就職した企業の名前が一生の肩書きとして評価される傾向にあると感じています。以上のことから今後の自分のキャリアを考えると、自身の成長とネームバリューを兼ね備えた、人材育成に力を入れている大企業に就職したいと考えてます。
92	2	3	2	大企業の方が福利厚生が整っていて、産後、育休などの後も復帰しやすいと思うから。また、中小企業の名前を知らないから。
93	2	3	2	
94	1	3	2	個人的には社会に影響を与える人材もしくは中心的な役割を担いたいと思っているので、そのためには、すでに社会に影響を少なからず与えている企業に入社してそこでキャリアを積んでいくことが必要だと考えている。そう考えると影響を少なからず与えている企業というのは中小企業よりも大企業のほうが、企業単体で考えたとき影響を多く与えているのではないかと考える。ただし中小企業でも最先端技術など今後成長が見込まれる企業もあるので、どちらかという働きたいという選択肢を選択した。また、わたくしの価値観で、人事や経営企画といった管理部門などほうに興味もあるので、よりスケールの大きい仕事を管理部門でしたいとなると大企業のほうがいいのではないかと考える。
95	2	3	4	近年、大企業の不祥事が多いなかで中小企業は安定しているイメージがあったためです。今日の講義で学んだように、下請け会社であれば確かに発注が来ないと仕事がないということになりかねませんが、元請けを複数化することでリスクを分散させてとも聞き、安定した中小企業であれば働きたいと思います。また、成長性や柔軟性に関しても国と協働しながら業務を進めていることからそのような考えた理由の1つです。
96	2	3	1	フリーランスという働き方に関心があり、そもそも企業で働きたいと思っていないため。
97	1	3	2	日本にはすごい中小企業があることは、もちろん知っています。アップルの外注先が新潟の企業であることも知っていました。しかし公認会計士がなくなるなどか、いろいろ言われています。私としては1つでもリスクを減らしたいです。そうなると魅力云々とは言てられないと思います。つまり、魅力がないのではなく選べないのです。
98	1	3	2	福利厚生、働き方、給与の面でやはり大企業の方が整っているというイメージが強いからです。
99	2	3	3	私は企業を選ぶうえで軸が、「社会貢献」「さまざまな人や企業と携われる」「安定と保障」「女性が活躍できる」である。中小企業もこれらが揃っている企業もあるが、確実に「安定と保障」「女性が活躍できる」のは大企業が多いと思う。中小企業の中には、日本の伝統的な産業や技術を活かしたビジネスなど、日本になくはならない存在、まだ発展の余地がある企業が多いことは分かる。しかし大企業のほうがやはり給料が高く、福利厚生がしっかりあるのは大企業が多い。また社会で「働き方改革」が言われている中、中小企業は人手不足の部分が大きく、「働き方改革」が難しい企業も多い。私は結婚後も出産後も仕事ができ、一生働きたいと思っているので、中小企業はまだ女性も活躍できて、「ワークライフバランス」が難しい現状の企業が多いのではないかと考えた。
100	1	3	1	私は働くうえで、一番に将来の安定と安心を重視します。大企業の安心感と、転職のしやすさで大企業を好みます。
101	2	3	2	仕事の内容に成功するかどうかの限界がありそうで、チャレンジがあまりできなさそうだから。元々企業が持っているお金も少ないし、新しいことに賭けるお金も無さそう。
102	1	3	1	安定性が欲しいというところが1番の理由であり、私は1つの会社で長く働きたいと考えているので、安定性というところを重視するため、大企業の方が働く身を置きたいと思う。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
103	2	3	2	中小企業について普段自分では知りえないお話をたくさん聞いたものの、やはり「中小企業は経営が不安定である」というイメージが拭えなかったため。お話を聞いていて、中小企業でも成功している企業は数多くあり、決して「大企業が良く中小企業が悪い」というわけではないことは十分に伝わりました。大企業が多額のお金をかけて短期間で成果を上げるような事業では成し得ない、ゆっくりに時間をかけて低賃金コスト高労働コストでやっと達成できるような事業も魅力的だなと思います。しかし、その反面、その利益が出るかどうかともわからないままでの目の目を耐えられる自信はないなとも思いました。成功する企業は数多くある中小企業の中で一握りであるという思いも強いです。正直に言うと、将来のために安定して一定額貯蓄していきたい私にとって中小企業を第一志望にするまでの熱意はないという結果に落ち着きました。
104	1	3	3	以前までは確実に大企業志向でしたが、この授業でお話を聞いたり、外部の方からのお話を聞くことで、日本にもたくさん素晴らしい中小企業があることを知りました。しかし、勝手なイメージではありますが、福利厚生や面や給料の面から考えると大企業の方が勝っている部分があるかと思えます。自分が働く企業を決める基準としては、大企業だからこの企業に勤めたいとかは、一切無くなりました。自分の目できちんと会社選びをする必要があると感じたので、このような回答をさせて頂きました。
105	1	3	3	現在の自分自身の将来やりたいことが明確でないことがこう答えた要因として大きい。それに加えて大企業も魅力的であるが中小企業にしか担えないものがあるといった魅力もあるのでどちらかで働きたいとは現時点で決めることはできない。
106	2	3	2	大企業の方が会社の存続、給料の面で安定していると感じるからです。また、大企業で働いていた人が中小企業へ転職することの方が、中小企業から大企業へ転職することよりも容易だと思えます。私は女性なので、産休・育休の制度に関心があるのですが、大企業の方が在宅勤務や時短勤務があったりと自由な働き方ができるところが多くなってきているので大企業に魅力を感じています。
107	2	3	2	大企業のほうが、産休産休休暇などの制度がしっかりしている、というイメージがあるから。基盤や制度がしっかりしっかりしていないし、大企業からの下請けがなくなればいつ倒産してもわからない中小企業に就くのは抵抗がある。
108	2	3	2	収入面や福利厚生、会社の安定性、将来性そして社会的評価を考慮すると、やはり一般的には大企業に軍配が上がる。これらのことから二番の解答を選んだ。中小企業を支援育成する基盤やインフラ、庁、新連携などという心強い支えが存在し、中小企業が上記のあらゆる面を全く満たさないということはないは事実であるが、私が安定志向なのもあり、リスクが未知数ということが多い中小企業はやはり選択をためらってしまっただけです。
109	2	2	2	大企業はスケールが大きいところが、良い点でもあるが、一人一人の重要性は低く感じます。大学でも同じことを思うのですが、大人数で受ける講義よりも少人数クラスの方が、先生と生徒、また生徒同士のつながりも深くなり、同じ授業だとしたモチベーションも、実際に得られる知識も、向上すると思うからです。大人数の講義は、「自分が聞いてなくても」とか「ざわついて集中できない」という事態が起りやすいです。会社も同じように、規模よりも質が重要なのではないかと考えています。中小企業であれば、自分が会社にどれほどの貢献をできているかが明確にやすく、やりがいを見出せると思います。チーム（会社）の団結力や、個人のクオリティが高まるのは中小企業ではないかと思うので、私は中小企業で働きたいと思っています。
110	2	3	3	大企業は大企業の、中小企業は中小企業の良さがある。ゼミの活動などで中小企業を訪問することで、魅力ある中小企業があることや中小企業で働くうえでの良さは理解しているつもりではある。しかし、大企業のブランド力や従業員1人に対する福利厚生などの面においてやはり劣る部分がある。そのため、大企業、中小企業というくくりで考えるのではなく、自分にあった企業選びをしたいと思う。この理由によってどちらとも言えないを選択した。
111	1	3	4	世の中の企業の99%以上が中小企業であり、私たちが知っている大手企業以外にもさまざまな企業が存在している。そうしたなかで、ただ大手企業だからといった理由のみで大手企業で働くことを私は選択することができない。働く環境や成長できる環境などの要素などを含まれば中小企業で働くことも考える範囲になる。また中小企業は、設立日が浅く、比較的若い人が中心となって経済活動を行っており、将来性が高い。なので、自分たちが中心となって曾組織を作ることができるとは思っています。
112	1	3	2	やはり世間からのイメージを気にしてしまうから。中小企業の重要性を人々は認知するとははいえ、現段階では、自分の中で大企業のブランドには勝らない。家族を安心させたいという気持ちが強くなり、大企業を志望すると考えます。
113	2	3	3	企業の安定性などを考えるとやはり大企業はそれなりに保証されているようにも思えるし、一方で個人的な思いとしては地域に根ざした企業や、大企業に比べて転勤がない（少ない）という点では中小企業も魅力的に思えるから。
114	2	3	3	大企業だと今自分が何の仕事をしているのか、あまりわからなかったりといったことになりそうだと思います。しかし、中小企業は消費者に近いイメージで、自分のしてる仕事に意味を持つことができそうだと考えました。また、中小企業は消費者のニーズに近い細かな仕事をしているのでおもしろそうだったからです。
115	1	3	3	私は大企業にも中小企業にもこだわりをあまり持っていないからです。精一杯就職活動をして、社風や福利厚生の充実度などが自分の考え・スタンスに一番合った企業に就職したいと考えているからです。また、大企業にも中小企業にもそれぞれ異なるメリット・デメリットがあることは明らかです。言葉の響きやイメージ、偏見だけで中小企業を下に見ることなどはできず、中小企業は日本の産業を支えるうえでは欠くことのできない存在であります。また、講義を通して分かったように中小企業も問題解決や新規事業の創造として、さまざまな取り組みや工夫、支援活動への参加やマーケティングなどを行っていることを知り、やりがいなどを感じられると思ったからです。
116	2	3	3	中小企業と大企業それぞれどちらにも良いところがあるのでどちらも言えない。大企業は、大きな仕事を任せてもらえる。中小企業は、一人当たりの責任が重い。だから働くことを考えるとどちらも言えない。
117	2	3	1	中小企業は大企業ありきで成り立っているイメージがあるので、わざわざ不安が付きまとう中小企業に勤めたいとは思えない。
118	1	3	3	これから業績が上がると分かっている中小企業やその企業のアイデア商品が興味深いところならば働きたいと思うが、業績が伸び悩んでいる中小企業では働きたくないと思うから。
119	1	3	3	私がどちらともいえないという回答にした理由はプラスの面とマイナスの面が中小企業にはあると思うからです。プラスの面では例えば人数が少ないので融通が利きやすいということ。また、中小企業といっても大企業のようなことをしている企業もあるため一概に中小企業は零細であるとは限らないと思うからです。さらに、大企業では人事異動が多く本来希望している部署から飛ばされたり、転勤などで日本や海外の各地に飛ばされる可能性があるからです。マイナスの面では給料（ボーナス）が低いことや、恐慌などのあおりを受けて会社がなくなったりリストラされる可能性が高いことです。また、知り合いや親せきに中小企業で働いていることを心配されたりする不安もあるからです。以上のことからプラスとマイナスの面がありどちらがいいとは一概に言えないのでどちらともいえないという回答にしました。
120	2	3	1	福利厚生が整ってなさそう
121	1	3	3	大手企業でも、中小企業でも、自分に合った企業、会社で働くことが1番大事だと思っています。今はまだやりたいことが明確にあるわけではありませんが、これからの企業分析を経て、自分がやりたいことを見つけ、そのうえで自分に合った企業を吟味したいと考えています。
122	1	3	2	企業に求めているものが将来性の安定なので、その面から中小企業よりも大企業の方が安心できると考えているから。
123	1	3	2	金銭などの面で大企業に比べて安定性に劣るところがあるのでできれば大企業での就職がしたいと思えます。しかし前回のゲストスピーカーの方がおっしゃっていたように中小企業にもたくさんの魅力があるため少し興味はあります。
124	1	3	4	国や地方公共団体の支援があり、大企業がやらないような新しくおもしろい事業をやっている中小企業が多いから。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
125	1	3	2	私は大企業意識が高いです。なぜなら幼いころから誰もが知っている企業で働きたいという想いを持ちこまで来ました。いうなれば大企業に入る手段で同志社大学に入学したとしても過言ではありません。大企業を志望する理由としてはまず給料が高額であること。そして福利厚生が整っていることが主な理由としてはあげられます。中小企業でもこのような条件が整っている企業もあると思うが、それでも私は大企業で働きたいと考える。
126	1	3	1	
127	1	3	3	私がそう答えた理由は私自身まだ自分がどうしたいのかわかっていないからである。その原因としては、やはり中小企業また大企業についての知識がないことからきていると思う。知識がないので、今現在私はイメージで語るしかできない。それを前提にして中小企業に就職するか大企業に就職するかを論じるとするのであれば、大企業は給料がいいイメージはあるが、働いている社員が多い分個人的な責任が問われるような仕事は少ないイメージである。私自身責任のある仕事、誰のために働いているかが明確な仕事ややりがいのある仕事だと思っているので大企業でやりがいを感じれるのかということに不安を抱えている。それに対して、中小企業は給料は大企業に比べると少ないが、一人一人責任のある仕事が任せられやすいイメージがある。先ほども述べたようにあくまで個人的なイメージにすぎない。したがってこれからインターンや就職説明会などの機会を活かしてそれぞれの会社の実態を把握しようとして自分の進路を決めたいと思う。
128	2	3	3	まだ就きたい職が決まっていないので、大企業に行きたいか中小企業に行きたいかはまだわからない。しかし、中小企業論の授業を受けてみて、大企業の方が良いイメージが多かったが、中小企業も良いところがあるのだとわかった。就活するにおいて、中小企業も候補にいたい。
129	1	3	2	大きな企業で働いているというステータスが何よりも欲しいと感じるからです。
130	2	3	2	私は仕事をするにあたって、福利厚生の充実を求めます。全ての中小企業がその点に欠けているというわけではありませんが、就職活動をしている今、女性の働きやすさを推している大企業をよく目にします。結婚をして、子供ができたときに産休休暇や育児休暇をとれることは女性にとってはとても大きな魅力だと感じるので、私はその点において、中小企業ではなく、大企業への就職を希望します。
131	2	3	1	私は、将来親孝行をしっかりしたいと思っています。そのうえで、どのような人生を歩めば最大限に親孝行ができるかと考えた時、親が知っているような大きい企業に入り、安定した収入を得て、親に不自由のない生活を送ってもらうことが一番良いと思います。中小企業に就職したくないというよりは、自分の生涯を歩んでいくうえで、中小企業に就職することの良いベストではないと感じているところです。
132	2	2	1	親が中小企業を経営しているが、非常に不安定であるため。基本的に余裕がなく、取引先の注文に経営状況、また労働状況も左右され、それに合わせた報酬が受け取れないように感じる。事業を展開させるにも資金調達がうまくいかず、挑戦することさえ難しいように感じられる。大企業であれば、そのブランド力と資本に頼ることで、多少のリスクを伴う事業にも挑戦できる。
133	2	3	2	私は働くうえで、生活面での制度の整いを重視しているため、中小企業に抱くイメージが福利厚生が大手と比べると整っていないという点がどうしても存在するから。大手だからといって、倒産する可能性がないとか、福利厚生が実は利用しにくい環境があったりするかもしれないが、中小企業よりも信頼がどうしても大きくなってしまふ。
134	2	3	3	授業を通して中小企業の良いところ、悪いところについてよく知ることができましたが、大企業の方が福利厚生が整っていて働きやすく、給料が高いというイメージが自分の中で強くなります。ですが、中小企業のような下請けの企業でも、海外とのつながりを持っており、これから拡大していくだろうと見込めるような企業なら、企業の成長にやりがいを感じることができるので、そこで働いてみたいとも思いました。
135	1	3	3	講義や講演において、独自の技術や地域とのつながりによって十分な競争力を持っている会社があることを学んだし、はたらく場所を考えるにあたって企業の規模は特に重視していないから
136	1	3	3	中小企業のことをあまり知らないから
137	2	3	3	中小企業も大企業もそれぞれがよいところがある。中小企業はまだ成長の余地が残されていたり、地域に密着した事業をやっているのが魅力的である。大企業はその安定性や社会的地位が非常に魅力的だ。それぞれにいいところがあるのだが私は公務員になると決めているので選ぶことができない。
138	1	3	2	中小企業は大企業と比較すると、自分の意思が反映しやすい点や責任の強い仕事を任せてもらいやすい印象があるが、私は大企業に就職したい志向が強い。なぜ大企業が良いかと言うと、大企業はまず壮大な資金力があり、企業によっては普遍的に需要が続き、衰退する心配性が低いことが第一である。やはり、自分にいくら裁量があろうと、潰れてしまう環境と隣合わせで仕事をするのは私個人からすると不安であるからである。
139	2	3	4	中小企業といっても日本にあるほとんどの会社が中小企業と言われているし、授業を聞いていて、さまざまな社会貢献もしているし、よくイメージされるような単なる小さい会社というわけではまったくないから
140	2	3	4	おもに2つの理由があります。第1に、就職の競争率が低いことです。大企業に比べると大きく違うと思います。競争が激化していない中では、自分にとって良いと思える企業に出会える可能性が高まると考えます。第2に、自分の成長につながりやすいことです。中小企業では、一人一人が力を発揮する場面が多いように思っています。大企業では得られないような、若いうちからの責任感ややりがいを感じられると思います。さらに、この経験を踏まえると将来に向けてのステップアップにつながり得ると考えます。
141	2	3	2	将来、結婚して子育てをしたい、産休や育休を取りたいなどを考えると、福利厚生の手厚く、休みがある企業がいいと考えます。その点に関して、大企業の方が充実しているというイメージが大きいからです。
142	1	3	2	大企業のほうが事業規模が大きいく、自分のやりたいことが達成しやすくなると思うから。
143	1	3	4	
144	2	3	1	大企業は影響力があるから。中小企業はフレキシブルに働くことができず社会への影響力も小さい。地方に縛り付けられ年収も低い。
145	1	3	3	就職活動を控えて、知識はまだ少ないですが、現時点では中小企業で働きたいという考えはありません。それなのに、どちらともいえないと答えたのは、就職活動中やこれから企業研究をしていくうちに、中小企業で働きたいという考え方が生まれるかもしれないからです。大企業で働きたいという考えはありますが、それで考えていてはうまくいかないような気がしてなりません。ですから、中小企業で働くということも視野に入れて考えていかなければいけないと感じています。
146	1	3	3	主に負の側面と良い側面の両方があるからである。まず、私が中小企業のことをあまり良く思っていないことが事実としてある。なぜなら福利厚生の中で中小企業は大企業に比べてあまり良い評判を聞かないからである。また下請企業の場合は、大企業にかなり従属していつか大企業との関係が切られるのか、日々恐れながら働かなければならないと考えるからである。一方で、中小企業の中でも独自の技術を所持している会社もあるのもまた事実である。それを上手くマーケティングなどを駆使することで世に知らしめることができれば、きっとその中小企業の運営はうまくいくであろう。そして何よりもその独自の技術を複数組み合わせることで、新たな製品が開発され、社会をより良い方向へ変革していくことは魅力的である。以上より、一概に中小企業が悪い面ばかりを持っているとは言え切れず、良い面を持っている。しかし、現段階では私は具体的な将来の働き方を描けておらず、大企業よりも中小企業で働きたいか働きたくないか定かではないため、どちらも言えないという回答とした。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
147	2	3	2	大学3回生の秋ですが就職活動はしておらず、現段階で将来どうなりたいか明確なビジョンがありません。しかし、人や社会に役に立つ仕事の中でも、目に見える形で人の役に立つ仕事をしたいと考えております。もし、ものづくりをしている会社であれば、実際にそれを使う消費者の声に耳を傾けてお客様に寄り添っていきたくと思うし、またものづくりをしている人たちともかかわりを持って仕事をしていきたいと考えます。大きな企業だと部署や部門が多く、入社してからジョブローテーションを繰り返して、多くたくさんの方と同じ経営理念の下で、幅広く経験できると思いました。なので、大企業で働きたいと思えました。
148	1	3	3	大企業や中小企業にとらわれずに自分に合った会社に属したい。
149	1	3	2	大企業の方が将来的に安定していると考えられ、私自身結婚願望なども持っているため、安定した企業で働きたいと言う気持ちがあるため。
150	1	3	3	私は将来公務員を志望しており、企業に就職したいという願望が無いというのが1つの理由です。また、大企業か中小企業かどちらかを選ぶならということになると大企業を選ぶと思います。もちろん、中小企業の中にも素晴らしい企業はたくさんあると思いますし、魅力的な事業をしている企業は大企業、中小企業関係なく素晴らしいと思います。しかし、私自身が働くとなると大企業がいいと思えました。やはり、多くの人が知っている会社で働きたいと思えます。やはりネームバリューのある会社で働きたいと思うからです。もちろん、それが安易な考えであることは理解していますが、正直な考えを述べるとそのような回答になりました。
151	2	3	2	中小企業より大企業で働きたいと考える理由は2つある。1つ目は、規模の違いである。大企業であれば、その規模の大きさから社会に直接影響を与える大きなプロジェクトができると考える。これは資本的に余裕があり、社員が多くいる大企業であるからこそのことだと思える。2つ目は、海外にも事業を拡大している企業が多いことである。私は、インドネシアに住んでいた経験から、ハラール食に興味があり、ゼミでの研究テーマとしている。将来はアジアに市場を拡大することを考えている企業に就職しマイノリティビジネスを通じた社会貢献を行いたい。そのためには、海外に市場展開するためのネットワークやグローバルな視野をもっている企業に就職したい。大企業の方が希望する仕事内容ができると考えている。以上が、中小企業より大企業で働きたいと考える理由である。しかし、中小企業のインターンシップに参加したことで視野が広がった。中小企業であれば、大企業に比べ一人一人の仕事への関わりが増え、入社後から責任ある仕事を任せられるように感じた。今後も積極的に中小企業のインターンシップに参加したい。
152	2	3	2	中小企業について知っておくのは大切であるが、大企業で働いているほうが日本の経済の動きについて知れたり、羽織る人が働いている中で自分が働くため、さまざまな価値観にふれられてじぶんを高める場が多く供給されそうである。いろを広げようと思ったり、自分のアピールの強みになるのは圧倒的に大企業だから。
153	2	3	3	どちらも言えない。景気も安定している現在の日本では、同時に大企業からの下請けも増えるため、福利厚生や給料の安定した中小企業に就職するのも1つの選択だと思うが、今後の日本経済はどうなるかわからないし、「近い未来、リーマンショック以来の大不況が訪れるかもしれない」と予測する経済学者もいる。そのため、今後はますます海外への投資が増えると考えられるし、日本の大企業の海外進出も増える。よって、今後は日本オンリーのビジネス展開を行う予定である中小企業に対しては働きたい、とは言えないが、反対に「海外進出を考え、ある程度のプランも立っている」中小企業もしくは「大企業にとまない海外展開を既におこなっている」中小企業に対しては、働きたい、といえる。そのため、「どちらも言えない」を選択した。
154	1	2	2	大企業よりは中小企業の方が、出世し、上に行きやすいイメージがある。その方がもししたら大企業で働くより有意義で、お金持ちにもなれるかもしれない。しかし、大企業と比較し、不安定な事業であり、下請けイメージもあることから、労働環境の劣悪さも感じられる。こういったイメージから、中小企業で働いても良いかもしれないが、やはり大企業で働きたいという気持ちがある。
155	2	3	3	私はいま三年で就職活動をしてはじめているが、大企業にも中小企業にもそれぞれ違う魅力があるため現段階ではまだ決められないため。
156	1	3	5	大企業で働いたほうが安定しているという意見は間違っていないが、その大企業の中で埋もれてしまうのは私は嫌だと思う。自分の力で会社を動かしたいという気持ちもあるし、そうでないとやりがいを感じなくなってしまう気がする。誇りを持って働くためにはこれには私にとって必須である。鶏口となるも牛後となるなれというこわざがあるように私は組織の上で働きたいとおもう。よって大企業よりも中小企業で働きたいと思っている。
157	2	3	2	私は福利厚生を整った経営が安定した企業で働いた方が安心と安定を感じることができると思っているため、ある程度名の知れた大企業がいいと思っています。
158	1	3	2	安定した企業で働きながら福利厚生充実、高所得などが欲しいため。
159	1	3	2	現在の日本は少子高齢化という課題を抱えており、将来的には日本の市場は縮小していくと考えています。これまでの収益を上げるまた、増加させていくには海外進出が重要となると思っています。比較的大きな企業の中には世界の企業と競争することができる技術を持った企業が多く存在しているのではないかと感じているため私は現在、比較的大手の企業を志望しています。
160	1	3	1	理由は大きく分けて4点ある。 1点目が、待遇の良さである。大企業は、業界の中で競争優位を構築している場合が多い。よって、一般に、零細な競争劣位にある中小企業よりも、大企業の方が給与が高い場合が多い。2点目が、福利厚生である。もちろん、企業ごとに福利厚生の充実度は異なるが、大手企業の方が中小企業と比べて福利厚生が充実している。年金や保険制度、そして住宅手当など、社員に対する給料以外の報酬が充実している。3点目が、中小企業と比べて、大企業の方が、会社単位としては大きな事業に関与することができるからである。中小企業と比べて、大企業は潤沢な経営資源(ヒト、モノ、カネ)を有しているため、社会に大きなインパクトを与える規模の大きい事業に着手することができる。4点目が交渉力の強さである。一般に、中小企業と比べて、大企業は、5フォース分析における買い手の交渉力と売り手の交渉力を優位に行使することができる。これは、収益力を安定させるという意味で非常に肝要である。
161	2	3	3	まだ大企業と中小企業の違いが詳しくわからないのでなんとも言えない。大企業の方が、福利厚生等は手厚いと思うが、中小企業の方が自分の能力や努力が認められやすいような所もあるかなと思う。企業数で言うところ、圧倒的に中小企業の方が多いし、ひとくくりに中小企業といっても企業によってさまざまだと思うので、しっかり研究したいと思う。しかし、これから先、より可能性があるのは中小企業なのではないかと考え、発展段階である企業で自分の意見や行動が反映されやすいような気がし、大企業の大人数の中の1人として働くよりも、楽しそうだというイメージもある。この間、TVで大企業の方が年収も高いがその分残業時間も長いというデータを見た。そういった働きやすさの面では中小企業の方が働きやすいのかも思えないとも考える。以上のような理由から、大企業か中小企業どちらで働きたいかは、どちらも言えないと今のところ思っている。
162	1	3	2	中小企業は大企業と違い、自分のやりたいことを自由にできる機会が多かったり、若い時期から大きな仕事に取り組むことができたりと魅力的な部分もあるが、やはり大企業のほうが安定した収入があり、ある程度は約束されたキャリアがあるので人生設計するうえでも大企業のほうが魅力のある企業と考えたから。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
163	1	2	2	講義を受けるまでにこのアンケートに答えていたとしたら、就職したくないと答えていたと思います。そもそも日本において中小企業に対してよい印象を持っている人は少ないのではないかと考えます。ドラマなどでも中小企業の社長が借金に追われ自殺する、という場面をよく見て未来がほとんどない職業であると小さいことから思っていました。そのため、具体的に企業や経営について学んでいる今でもよい印象を持てず、就職したいとは到底思えませんでした。しかし、講義での解説や前回の講演会で話を聞くうちに、中小企業に対する関心が高まったのも事実です。中小企業に対するサポート、そのやりがいも自分がしらなかった中小企業の特徴がたくさんあることがわかりました。まだまだ必要な知識はたくさんあると思います。それを学んだときもう一度中小企業で働きたいと思えるようになればと思っています。
164	2	3	3	将来的に大企業よりも中小企業で働きたいと思うかという質問に対して、どちらも言えないと答えた理由は主に2つある。1つ目の理由は、中小企業に勤めることに対し肯定的な意見を裏付けられるものである。それは私自身が中小企業を経営する父親を持っているからだ。中小企業ならではの結束力や、経営者と従業員の距離感が近く、新規事業展開においても企業全体での意見を反映することができるということを、父から話で聞いていた。中小企業ならではの特性を生かし、経営者と各従業員が密接な関係を築けることに対し魅力を感じている。2つ目の理由は、中小企業に勤めることに対し否定的な理由となってしまうが、企業規模の小ささや企業経営における安定さに対して不安が残るという点だ。実際に私の地元にあるさまざまな中小企業は他企業に吸収合併されるか廃業に追い込まれるか、また、市場競争が激しさを増すばかり企業としての魅力が欠ける経営者が増えているという話を聞く。上記2つの理由から、現在の段階で、自分が中小企業に勤めるかどうかという問いに対して明確な答えを見つけることができない。
165	1	3	1	大企業で働くことより、仕事のやりがいを大事にしたいから。
166	1	3	2	中小企業は少人数が少ないため求められる存在になることは、自分にとっては、嬉しいことだが、人数が少ない分一人の仕事量が多くなりそうであるというイメージを持つ。それに比べ大企業であるならば、多くの人材がいるので、自分の得意な分野は得意な人に任せ、自分の得意な分野は人から任せてもらおうというような自分の力を大いに発揮できる機会が多いと考えたからである。また、福利厚生面で考えても、大きな企業になればなるほど、政府の管理の目が厳しくなると思われる。その結果、過剰な労働を強いられることは少なくなるのではないかと考えられる。中小企業はその点で大企業に劣ると考えられ、母体数が多いので、政府の監査は入れにくくなる。そのようになると、やはり、残業が多くても仕方ないかと思うようになる。また、残業が周りの人もやると言われたら、新人として入社した自分は、断ることはできないと思う。故に、大企業の方が中小企業より、自分には合っていると思われるため、中小企業より大企業が魅力的に感じられる。
167	2	3	4	私が「どちらかといえばそう思う」を選んだ理由は大きく分けて3つある。1つ目は、人数の面が挙げられる。中小企業は、大企業に比べると社員数が少ないため、上司や社長との距離が近く、風通しの良い職場が多いのではないかと考えている。たくさん社員の顔や名前を覚え、私も社員の顔と名前が一致しやすく、円滑なコミュニケーションをすることができらるだろう。会社とは、チームワークが良くなければいけないのではないかと思う。なぜなら、私のアルバイト先では、チームワークがとても重視されているからだ。他にも、社員数が少ないため、若手にもチャンスが多いのではないかと考える。私は、中小企業を研究するゼミに所属しているが、「少数精鋭」という言葉を耳にする。若手のころからチャンスがあることは、私にとって魅力的であるのだ。なぜなら、私の性格が負けず嫌いであるため、自分を正しく評価してほしいという気持ちが大いからた。チャンスを与えてもらい、成功していけば、自分の評価も上司や社長から評価され、自分の力を認めてくれるだろう。これは、大企業でも言えることであるだろうが、社長との距離が近ければ、中小企業に就職した方が近いと考えている。自分にしかできない仕事を、若手から任せてもらえることは、すごく魅力的に感じている。2つ目は、中小企業を自分の力を含め、すべての社員の力で大きくしていきたいから。大企業は、ある程度大きくなった後であるが、中小企業はまだまだ大きく成長の余地を残した、原石ではないだろうか。会社貢献を体感し、胸を張って自分の仕事誇りにできるように頑張りたいと考えている。3つ目は、将来の「安定」を考えて、大企業を選ぶことはいけないと考えているからだ。私が働きたい企業を「大企業か中小企業か」という基準で選ぶのではなく、「その職場の雰囲気や自分が合いか合わないか」で判断したいと考えている。この基準を見出したのは、ある就活セミナーでの「本当に安定した企業が大企業なのか」という言葉からであった。最近、大企業でもさまざまな問題を抱え、時には不正が起きているというニュースを耳にする。また、景気の不安定のために、大量にリストラを行う大企業がある。このため、安定しているかの違いだけで就職活動を行うのは、あまりにも不安定だと感じているのだ。この3つ目の理由から、「そう思う」という選択肢ではなく「どちらかと言えばそう思う」を選択した。以上が、私の考えている中小企業に魅力を感じている部分である。しかし、中小企業といっても会社の規模は大小あるだろう。中小企業を一括りにしていくのは、魅力ある企業を見落とす可能性があると考えます。私たちが、視野を広く持ち、就職活動を行う必要があるのだ。
168	2	3	1	私は中小企業よりも大企業に勤めたいと考えています。理由は、大企業の方が安定性があると感じられるからです。近年の日本企業は外国企業による買収や統合が多く、不安定だと感じています。その中で自身は買収される側に立つのか買収される側に立つのかという問題が出てきます。今後私が家庭を持つ際には、安定を求め、買収される側に立ちたいと思います。それは、私には配偶者や子供を養う必要があるからです。
169	2	3	3	私は今3回生で、就職活動をひかえています。そこでいろいろなインターンシップに応募していますが、そのほとんどが大企業です。その理由は、聞いたことのない中小企業に応募するのは企業研究をしなければならず、それならどういった事業をしている企業なのかおおよそ理解できる大企業に応募しようと思ったからです。ですが、この講義を聞いて中小企業に対する見方が変わりました。いままでは町の小さな工場で製造業をしている小さな会社くらいしか認識していませんでしたが、中小企業が協力して運営している企業組合などでも無駄なコストでしかなかったものを新しい商品として売り出すなど、ある意味大企業より自分のやりたいとおもっていることをできるのかもしれないと思うようになりました。
170	2	3	3	私は企業の規模はあまり重視していない。大企業でも、良い企業ばかりあるわけではないし、中小企業でもとても魅力ある良い企業もある。従って、福利厚生がしっかりしており、風通しの良い企業であり、上司の命令ばかり従うのではなく自分の意見がしっかり言える、アットホームな雰囲気の企業で働きたいと思う。大企業や中小企業といった、規模で考えず、最初からこだわらずに自分に合った企業を選べば良いと考える。以上の理由より、私は大企業よりも中小企業で働きたいといった質問に、どちらでもないと答えた。
171	1	2	1	海外の人と取引や仕事をするのが夢で、そのような経験や知識は大企業に多くてあるから。大企業の方が収入がよいから。
172	1	3	2	大企業であっても中小企業であっても、自分にとって働きやすい環境が整っていることやその仕事にやりがいを感じて働けるかということが大事だと思うが、給与の面であった職場の立地などの環境の面では中小企業よりも大企業の方がより働きやすい条件が整っているようなイメージがあるため。
173	2	3	3	先日の中小機構の方のお話を聞いて、中小企業の地域資源を活用した地域経済活性化のための新事業にとっても興味を持った。地域の特色を生かした事業を展開するのほどでも魅力的であるし、日本の商品を海外に売り込みたいと考えているので中小企業も視野に入れたかった。しかし、私自身が将来に対してどうするかという具体像が絞り込めていないのと、大企業の基盤や規模はやはり中小企業に勝るところがあるので、「どちらとも言えない」と答えた。
174	2	3	2	中小企業が悪いとは思いませんが、大企業より中小企業の方が良いと思う点が多くないから。例えば、大企業の総合職に就職した方がさまざまな部門でさまざまな仕事や人に携わることができるのに対し、中小企業では関わることのできる仕事や、人の数が少ないと思うので私はどちらかと言えば私は大企業で働きたいです。
175	2	3	3	講義や講演会を通して、自分の中にあつた中小企業に対するマイナスイメージは軽減され、中小企業には中小企業にしかない強みがあると思うようになった。しかし大企業にも大企業なりの強みがあると考えている。現時点の自分はまだ将来のビジョンがはっきりしておらず、就職するにあたり中小企業と大企業、どちらの強みを取るべきなのかまだわからない。中小企業で働きたいかと問われればどちらとも言えないが、中小企業も選択肢の1つとしては考えている。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
176	1	3	3	規模の大きい小さいだけでなく、会社の掲げる理念や事業内容を加味し、また自分の性質と合うかどうかを鑑みる必要があると考えているので、規模だけで考える安易な就活はしたくない
177	2	3	2	私は現在、結婚や出産後も仕事を続けたいと考えている。そのため、将来働く会社に安定性を求めている。大企業と中小企業を比較すると、大企業の方がより業績が安定しているイメージがある。また、福利厚生も大企業の方が手厚いイメージがある。これらのことを踏まえ、有休や産休を取得し、経済的にも安定して子育てを続けられるのは、大企業であると考えられるため、大企業で働くことを志望している。
178	2	3	3	私は、アットホームな雰囲気や働きたい・自分の存在意義を感じられる仕事をしたいと考えているが、その観点から考えると大企業よりも中小企業の方が自分に合っているような気がする。しかし、将来的にその会社や世間体を考えて中小企業を第一志望に考えてしまうから。
179	1	3	3	大企業に行っても働くよりは、中小企業に行っても自分のやりたいこと、自分の力を発揮したい、なんてことをよく聞くのですが、僕の考えとしては、自分は与えられた仕事はちゃんと全うすることができると思うので、どの企業に行っても同じような感じで働くことができると考えています。
180	1	3	3	ゼミ活動の一環で中小企業に触れ合うことが多くあり、中小企業の実態や魅力などを学ぶ機会があったため、中小企業に対する偏見や考えに関しては少なからずプラスの印象を感じている。だが、親や周りから要求されたり、期待されているのはほぼすべて大企業で働くことという現状があるので、働いてみたいとは思いますが実際に働くとした場合に現実的に考えてどちららを選ぶかという点においては、どちらもいえないという結論に至った。何を考えるにしてもやってみないとわからないということが頭にあるので、大企業が良い、中小企業のほうが良いというのは現時点では確実に判断できないものではあるが、結果的に自分の働きに見合った報酬が支払われるかという点や労働環境によって判断せざるを得ないのかなと思う。大企業の良さ、中小企業の良さはそれぞれ異なるものであるし、その良さを自分にとってどちらが良いかということを決めるから決めていかねばならないのだと考えている。
181	2	3	3	私は大企業で働きたいと考えていた。しかし、今回、この授業を取得し、また、講師の方の話を聞いて中小企業の魅力もわかったからである。大企業は名前だけ取ってみたら、とても素晴らしい、福利厚生がしっかりしていることが私の考えている大企業である。しかし私は今回の授業でいけば魅力を感じた中小企業のポイントがある。それは自ら作り出せる力である。中小企業は大企業とは違って自ら作り出して、モノや材を売るという手法をとっている。わたしはここに惹かれた。もちろん大企業でもモノや材を売るということを行なっているが、中小企業はアイデアを出してそれを商品化するということが実施しやすいと感じた。わたしは自分でモノを作り出すことがとても好きである。あわよくば自分の企業を起業したいとも考えている。このように自分で考えてモノを作り出すという点でわたしは中小企業にとっても魅力を感じているからだ。しかし世の中の中小企業には大企業に入ることを目標としているひとも多くいる。わたしもその一員だったが、自分作り出す、あわよくば起業すると考えているので、わたしはやはり、中小企業の方が大企業よりも魅力を感じているのだ。
182	1	3	3	中小企業は、将来成長する可能性があり、その成長に関われることは達成感を味わえるので働いてみたいとも思えるが、大企業とは違って収入や福利厚生などの面で不安があり、将来の安定を保障することができないうちでもいえない。
183	2	2	3	以前より中小企業に多少興味を持つことができましたが、大手スポーツメーカーなどで働きたい等の考えがあるからです。また、最近では神戸製鋼の不正が発覚したりなど大手企業の不祥事がありました。中小企業はそういった問題で打撃を受けることがあると考えているからです。
184	1	3	2	名の知れた大企業で働く方が自身のステータスになると感じているため。また倒産などの危機が大企業の方が少なそうだから。
185	1	3	2	中小企業に就職したくないわけではないですが、大企業の方が、福利厚生や退職金を含む給料が比較的安定しており、経営面で安定しているのではないかと考えているためです。
186	2	3	3	大企業には大企業の良さが、中小企業には中小企業の良さがあるのでどちらかを選ぶのは難しい。今は大企業の方が魅力的な部分が多いと感じるが、中小企業論を受講する中で中小企業の魅力も出てきた。
187	2	3	2	現在就活をしている中で大企業の魅力や人気度を知り、そこで私も働いてみたいと思っているからです。世の中の会社数で言ったら大企業などほんの一握りではありますが、部活動の先輩の多くは大企業に就職していったので私も先輩方のように大企業で働きたいと思っています。
188	2	3	4	一人一人社員が行わなければいけない業務が大きいくるんなことにチャレンジできるから
189	2	3	1	授業で学んだように、世の中の99%は中小企業で、たった1%が大企業。知られていないだけで、中小企業の中に良い企業はたくさんあることもわかる。しかし、ここまである程度勉強を頑張らなくて、同志社大学に入学し、大企業への可能性を広げることができた。やはり、大きな規模で仕事をし、名前がよく知られている大企業への憧れは捨てきれないことが事実である。また、自分自身の気持ちももちろんだが、まわりの目のことも考えてしまう。やはり、世間的に、大企業に採用された人は優秀な人という考えがあることは間違いないと思う。有名な企業に入って、親孝行したいということも考えてしまう。しかし、就職活動を進めていくうえで、自分に合う中企業に出会えることができるかもしれない、その場合は採用していただけたら、入社したいと思う。しかし、自分に合う企業が、大企業と中企業の2つ選択肢を見つけたら。迷わず大企業を選んでしまうと思う。
190	1	3	1	福利厚生、転職のしやすさ等が大企業の方が優れていると考えているから。
191	1	3	2	社会に大きく影響を与えられる職業に就きたいと考えているため、大のほうが多いと思うからです。
192	1	3	4	大企業では、幅広い事業展開で自分がやりたいことがその中から選択できたり、新事業の領域を広げたりと機会の幅が豊富にあることが魅力の1つだと思う。しかしながら、それは自分が本当にしたいことなのかということはその企業に入ってみないと分からない。すなわち、「これがしたい」という理由で入るよりは「有名だから」「皆が目指すから」という理由で入ることが多いのではないかと考えた。これでは自分が一体何を学び、成し遂げようとしているのかわかりずらさきり自身でも説明がつかなくなってしまう。その点では、中小企業の方がより明確な事業展開で「幅」はそこまで広くなくても、「1つのこと」を成し遂げようとする企業の力を感じられる。中小企業よりの回答をしたのにはこのことが頭にあったからだ。中小企業の中には、その社名はほとんど知られていないが、製造しているモノは世界でも有名で、そのシェアを多く占めている企業もある。例えば、以前にTVで水族館の巨大アクリルパネルを作る企業の戦略について拝見した。美ら海水族館の巨大水槽でも使用されているアクリルパネルで、世界の水族館から発注がされているそう。その高い技術とシェアには、日本人として誇り高いもので、非常に感銘を受けた。高い技術力と確かな成長戦略を代々受け継ぎ、一点集中型でシェアを獲得する姿勢も中小企業に魅力を感じる理由である。「どちらかと言えばそう思う」と答えたのは、私自身、将来教員を目指していることもあり、中小企業に就職したいかと問われれば完全にそうだとはいえないからである。しかしながら、この中小企業論を受講し、中小企業の元々持っていたイメージに加え、新連携やネットワーク、組織化といった新たな動向からより中小企業に対しての魅力を感じている。
193	1	3	2	私はこの授業を受けるまでは中小企業に対して、マイナスなイメージを持っていましたが、この授業や前回の講義を受けたことで少しずつ中小企業に対してプラスのイメージを持つようになってきています。しかし、もし仮に大企業と中小企業のどちらでも働くことができる状況に陥ったとき、私は大企業を選択すると思います。その理由としては、やはり大企業の方が業界における立ち位置や仕事内容の規模、福利厚生面において中小企業よりも魅力的に感じられるからです。そのため中小企業で働きたいと言われるとどちらかといえばそう思わないという結論に至りました。
194	1	3	3	大企業がいい、中小企業がいい、というこだわりはなく、ただ自分がしたいことをさせてもらえる企業ならどこでもいいと思うから。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
195	1	3	2	私は能力の高い人たちの中に入って仕事をしたいと考えている。自分の大きな刺激になるし、成長につながると思っているからである。中小企業を低く見ているつもりはないし、日本を支える大きな役割を持っていることも深く認識しているが、大企業には、中小企業よりも学歴が高く、能力が高い人間が集まるというイメージがある。学歴だけでは意味はないが、社会に与える影響力の大きい大企業で働くという自覚を持った人間が集まると思っているので私はどちらかという大企業で働いてみたい。
196	2	3	2	大企業の方が事業が安定しているイメージがあるから。ゆえに解雇される確率が低いのではと考えてしまう。また、大企業は多くの事業展開をしており、同じ会社でもさまざまな業務に従事できそうだから。加えて、大規模な事業に関われる可能性は中小企業よりも大きいと考えられるから。
197	2	3	3	大企業でなければ、中小企業でなければ、というこだわりは特にありません。しかし、中小企業論の講義を通して自分の中小企業に対する固定概念に変化がありました。中小企業は大企業になれなかった企業というイメージがあり、学歴社会の世間では大企業に就職できてこそ立派な社会人という風潮があるように思えます。中小企業の方が圧倒的企業数である事を知っていても、大企業の知名度やブランドが目立ちがちです。中小企業の中には自ら中小企業である事を選択している企業もあります。また、大企業にはない魅力から生み出せる事業もあると思います。自分の目標や希望に合う企業があれば、大も中小も関係ないと思えるようになりました。
198	2	3	3	大企業にも中小企業にも優良企業は多数存在するため。また、大企業は競争率が高いことや、地方転勤の可能性もあること、中小企業にはその企業自体を見つけづらく、またアジア企業の進出等の影響により将来の安定を考えるには心もとないという点など、大企業・中小企業それぞれにデメリットも考えられるため。
199	1	3	2	中小企業の発展は確かに望ましいが、将来などの安定性を考慮すると大企業で就職したいと考える。
200	1	3	4	今年の夏季休暇中、インターンシップで、日系スキューバダイビングメーカーのアメリカ支社に行きました。その企業は中小企業だったのですが、その分、人数も少なく、企業の考えや、理念みたいなものが、従業員全体に浸透していて働きやすかったからです。また、その企業は中小企業ながら、シェアもある程度持っていたので、そのような、「隠れた企業」もやりがいがあるのではと思ったからです。
201	1	3	2	私がそのように考えた理由は主に2点ある。1点目は、現段階で私が就職したいと考えている企業が中小企業ではないからである。私が現在進みたいと考えている業界は玩具業界と金融業界である。玩具業界では主に株式会社バンダイを想定して、私の完全なる趣味・好きな分野であるが、そういったものの営業やマーケティング等に携わりたいと考えていて、営業やマーケティングとなると玩具業界では製造を外注される個の中小企業では厳しいだろうと考えているからである。また金融業界に関しては、私が商業高校出身で、現在も会計分野を専攻していることから、多少でも知識の生かすことの可能な分野だと考えているからである。また夏季に信用金庫のインターンシップに参加して、特に融資する仕事の話聞いた時に非常に働いている方々のやりがいを感じて、私も参加してみたいと感じたからである。2点目は私が中小企業に関しても、正直あまりに無知であるからである。中小企業と一括りにしても、その業種は幅広く、また独自の技術やノウハウにより非常に成功している企業もあるのが事実ではあるが、どうしても私は中小企業=下請というイメージが拭き切れない。また日本が今後技術力だけで勝負できない時代となったときに、事業範囲の狭い中小企業がどうその流れから生き残り続けるのか、先が大企業に見えないからである。以上の理由より私は中小企業にあまり働きたいと感じないを選択した。
202	2	3	4	中小企業で働く利点として、社員数が少ない分責任のある仕事を任せてもらえる、意思決定のスピードが早く、自分が会社を動かしている実感が持てるなどがあります。大企業の方が、安定していると言いますが、必ずしもそうではないと思います。倒産しない保証はないし、中小企業でも財務的に、ビジネスモデル的に安定している会社もあると思います。
203	2	3	3	私には中小企業のほうが向いているように感じているが、実際に働いた経験があるわけではないため、決め難く、どちらともいえないを選びました。
204	1	3	2	私自身「長い物には巻かれろ」スタンスではないが、世間からの評価や周囲からの世間体や地位、名誉などを比較的気にしてしまう性であるので、給料や待遇など諸条件が等しい条件下において、中小企業と大企業が選択できるならば私は大企業を選ぶだろうと考えたからである。しかし、完全に大企業を選ぶことになるのではなく、海外に誇れるような技術力であったり第三者から見ても優れた経営能力を持ち合わせているような中小企業であれば、私はそちらを選ぶことになると思うので、100%ではないが、「どちらかという」という80%程度の表現である選択肢を選んだ。
205	1	3	3	私自身、大企業に就職するという夢を長年持ち続けており、その夢をいつか実現させたいと思っているからである。中小企業に関してマイナスなイメージは全くないが、やはり自分の今目指している姿は将来大企業で働いている自分である。また、将来仕事に就くうえで、高収入などももちろん重要であるが、安定を第一に考えているからかもしれない。しかし、講義を受けていく中で、中小企業の素晴らしいところを理解することができ、就職活動において新しい目をごちにも向けて、企業観、そして就職観を広げてみようという思いでもある。
206	1	3	1	
207	1	3	5	中小企業は大企業のようなネットワークや莫大な資金、豊富な人的資源はありません。しかし中小ならではの内部の結びつきの強さ、事業の自由性、個々の人員の責任の大きさは中小企業の特徴であり魅力だと思います。会社のトップから平社員、さらにはアルバイトまでがしっかりとつながりを持ち、考えや意見、目標を共有することは大企業にはできないことだと思います。大企業には大企業なりの交流の仕方がありますが、会社全体として1つのまとまりをもってつながりを共有することはとても大事であると思います。その結果、従業員一人一人が会社の一員であり重要な戦力なのだとこのことを認識することにもつながると思います。そのため自分のことを会社全体から認識され、一人一人の責任も大きくなる中小企業は魅力的で働きたいと思っています。
208	2	3	3	大企業は福利厚生がきっちりしていて、比較的給料なども安定しているように感じるのに対して、中小企業も地域に寄り添った仕事や比較的自分がやりたいように仕事ができるのではないかと、双方とも魅力的に感じるから。
209	2	3	2	中小企業よりも大企業で働きたい理由としてまず挙げられるのは、大企業の方が福利厚生が充実していると感じるからである。保険や家賃補助などの支援に加えて、資格を取得するための環境が整っている企業が多い。これらは夏のインターンシップで知り得た知識であり、大企業であればあるほど充実しているという。また私は将来、海外での勤務の考えているためそのための語学研修などの支援がある企業で働きたい。このほかの理由としては、事業規模が大きいため社会的影響力の強い多くの人が知り得るサービスに関われることに魅力を感じている。今私が視野に入れているのは広告業界であるのだが、やはりおききな仕事をつかむには大企業である方が可能性が高まる。以上のような理由から、中小企業よりも大企業で働きたいと考える。
210	2	3	1	わたしは結婚して出産をしてもずっと働き続けたいと思っているので、それを考えると福利厚生の安定している大企業で働きたいと考えています。中小の成長企業でバリバリ働くのおもしろそうだと思います。しかしわたしは転職することなく1つの企業で働き続けたいと考えているのでやっぱり育休がしっかりと取れたり、職場復帰もしやすいのは大企業が良いと思います。
211	1	3	4	大企業で働くよりも中小企業の方が仕事の全体像が見えて楽しそうだから。
212	2	3	3	中小企業論を受講することにより、中小企業のイメージは確実に以前よりはいい印象を持つようになった。また、私の地元は徳島県で多くの中小企業であるため、将来的に地元で中小企業で新規事業創造を行い、企業や地域全体を盛り上げて、地域活性化を行いたいという思いは強い。しかし、中小企業は異質多元性であるため、まだまだ詳しく1つ1つの企業について理解する必要がある。その中で、中小企業であるのが、大企業であるのが、私自身にあった企業であれば、その規模に関係なく、働きたいと考える。そのため、現段階では、どちらともいえないのである。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
213	2	3	2	中小企業にはメリットもデメリットも存在する。まずメリットは仕事の自由が利くことである。中小企業は従業員数が少ないので上司との信頼関係も築きやすく、さらに、自分の意見を尊重してもらえると考える。より、自分の考えを実現させやすく、やりがいを感じることができらるだろう。だが、福利厚生があまりよくないというデメリットもある。さらに、大企業と比べると、安定性に欠けるところもあり、給料もあまりよくない場合が多い。このように、メリットも存在するがデメリットもある。私は、安定した職業に就きたいと考えており、また、育児休暇など制度がしっかりしている企業が魅力的であると考えるため、できれば中小企業より大企業で働きたいと考える。
214	1	3	2	中小企業よりも大企業のほうが比較的に年取が多いことと、下請け的な仕事よりも大企業でグローバル的に働くことに魅力を感じるから。
215	1	3	2	企業の将来性の不安が大企業と比べて大きい。給料、福利厚生など大企業のほうが良い場合が多い。日本では中小企業といえど、老舗も多く大企業にも劣らない企業が多い。独自の企業ブランドを持つ優れた企業も多いので一概に大企業の方が優れているとはいえない。故に大企業だけでなく中小企業に就職するという選択肢も考えられる。
216	1	3	3	働きたい職種が定まり、実際に具体的な企業について考えるときに、まず浮かぶのは大企業だと思ふし、そのままそこに就職することができたらいいなと素直に思うが、存在を知らないだけで、中小企業にも良い企業はきっとたくさんあるだろうし、もしかしたらその知らない企業の方が、自分の価値観により近い経営がなされているかもしれないと思うと、大企業であるという理由だけで、大企業に固執したり、またその反対に、中小企業であるということだけで選択肢に入れない、考慮しないというのは自分にとって良いことは思えないから。
217	2	3	2	大企業であるほうが、組織が大きくしっかりしていることが多いので、そこで組織の仕組み、社会の仕組みを学びたいからだ。大企業であるからといって、ずっと安定している、潰れないということは言い切ることができない世の中である。そのため、短絡的に中小企業よりも大企業で働きたいと思うことはない。また、中小企業といってもひとくくりにはできず、企業によって企業形態も事業規模も異なる。中には、地域に密着し、企業の影響を直接的に実感することができたり、高度な技術を使って唯一無二の存在でものづくりの基盤を支えたりしている。さらに、大企業に比べて従業員数は少ないので、会社の中で自分の存在を大きく感じられ、仕事のやりがいと考えることができる人もいだろう。以上のように、大企業がよいとは一概に言えず、中小企業にも多くの魅力があることがわかる。しかし、実際に私自身が、就職活動を終え、大企業と中小企業の2択を迫られたときは大企業を選ぶと考える。なぜなら、大企業に就職できるチャンスはそう多くないと思うので、新卒という一度きりのチャンスをつかみ、一度は大きな組織の中で社会の仕組みを知りたいからだ。大企業では、なかなか自分の意見が通らないこともあるが、もまれながら経験を積みたい。この経験は、中小企業では得られないと思うので、中小企業を見ながらも大企業で働きたい。
218	1	3	2	民間企業への就職を考えていないため、中小企業のみならず、大企業でも働きたいと思わない。私は、将来省庁に入って、教育支援関連の仕事がしたい。小学校の学力テストにも表れているように、小さい時から富裕層と貧困層の学力の差が出ており、将来の就職にも影響している。私はこの状況を変えたい。
219	1	3	5	私は職に就くにあたって、金銭面の重要度がそれほど高くない。給料よりむしろ自分の思い描くライフスタイルを叶えられるかが重要であると考える。将来のライフスタイルは家族と幸せな家庭を築くことである。その時、大企業に就職すると少なからず転勤する可能性が高いため私が単身赴任するか、子供を転校させるかであるが、どちらとも私が望むライフスタイルに支障をきたすため全国規模でない地域に密着した中小企業に魅力を感じる。また私は働くときに一人当たりの重要性が高い方がやりがいを感じる。大企業だとどうしてもコマのような換えが効く従業員に成り下がる恐れがあり、私の必要性を感じなくなる虚無感に襲われそうだからである。
220	1	2	5	ただ単純にまず他の企業よりも給料があるということ。次に他の企業よりもやっていることのスケールが大きいということ。スケールが大きいということはそのぶん責任の大きさが大きいということになるので仕事のやりがいというものがああると思うからです。仕事量や日々の充実感職場の雰囲気も全て大企業ならではのものであると思います。それが私が大企業を選ぶ理由です。
221	2	3	3	中小企業に対して、将来性が不安などといったマイナスなイメージを持っていたが、中小企業は中小企業なりの工夫をして利益を生み出しているということに魅力を感じた。今回の講義を聞いて、1つあるいはいくつかの発注企業に対してかなり多くの受注企業が存在しているために、中小企業内での競争が引き起こされるが、それによって中小企業の技術が発展するという点や、アセンブラーとサプライヤーが長期継続取引を行うことで密な関係を築けるという点に魅力を感じた。長期継続取引によって元請、下請ともに安定した環境が築けるのではないかと考えた。しかし、発注企業が倒産してしまったら共倒れしてしまうのではないかと不安もある。
222	1	2	5	中小企業は日本の大部分を占めている企業でありそういった大企業からの下請けのような存在である中小企業の力にならなくてはならないと思うから
223	1	3	2	安定を求めると大企業ではないかと考えたため。グローバル化や M&A が進んでいる中で大企業の立場がどんどん強くなって中小企業の立場が弱くなるのではないかと考えたため。
224	1	3	2	私は、働くうえで承認欲求を満たすということを第一に考えているため、この欲求は大企業に入ることで多くは満たされると考えている。また、大きな資金力・大規模の事業に携われるため、責任感という面でも仕事におけるやりがいを見出せると考えるから。
225	1	3	1	私の実家は家族経営の典型的零細企業である。両親の教育方針に従い、私立中高を経て私は家族のなかで初めて大学に入学した。私にとって、家族にとって、大学とは安定した将来を生み出すための必要条件であり、我々にとっての安定とは、大企業に就職し、(見かけだけでも)安定した生活と、(必ずしもそうではないものの)保障された未来を手に入れることである。そのため、私は「差」を生み出すために勉学に励み、同志社に入学した。社会的に高卒であれ中卒であれ、もちろんすばらしい先達がたくさんいるが、あくまで一般論として、大学とは周囲から自己を切り離し、「差」を生み出す場であると認識している。以上の意味において、私はたとえキラリと光るものであっても、新卒では、まず大企業を志すのである。
226	2	3	2	私は損保やメガバンクなどで、世の中を幅広く動かすような仕事をしたいと考えている。どんなに大企業より魅力的な商品を持った会社であってもその商品1つで動かせることは限られているだろう。しかし、人を大事にするという意味では個人及び会社の組織としての働きやすさでは大企業よりも優れているとは考える。だからこそ全く働きたいと思うわけではない。
227	1	3	3	確かに、授業では中小企業の魅力について多く語られていて、大企業が良いんだというような概念は薄くなりましたが、かと言って積極的に中小企業に入社することを目指そうとは思わなからです。大企業にもやはり大企業の良さがあり、それに対して中小企業はどんなものなのか、どんな良さがあるのか、それを今学んでいるので、これからの学び次第で自分がどちらを目指したいのか変わってくると思います。ただ、かつてからベンチャー企業には関心を持っていて、偏見というよりは肯定的な役割を果たしたいという意識もあるので、中小企業・ベンチャー企業というのに対しては興味というよりは肯定的な見方をしていきます。これからもっと中小企業の魅力を理解したいです。
228	2	3	3	大企業も中小企業もどちらにも魅力があるから。
229	1	3	3	中小企業がこれからの将来発展していくの不安だから。そして、中小企業の給料面について大企業よりも劣るから。あと、中小企業の業務があまりよく分からなかったから。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
230	2	3	3	まだ自分の希望する業種を決めていないため中小企業へも関心があるが安定的な意味で少し不安があり迷っています。日本のものづくり的な部分に触れるには中小の技術力が必要なのではないかと思いつつ、大企業が価格などの制限を設けることでクオリティが下がったり、経営が厳しくなる中小企業もあって、決められない状態です。1番消費者から遠い生産者だが、最も重要なモノ自体を作っている部分のコストをカットするのは本末転倒な感じがします。しかし大企業からの受注があることで成り立つ部分が大きくなかなか中小企業がブランディングするのは難しく現状競争に勝てないことから、安定につながらず大企業を目指してしまう理由なのかなと考えています。
231	1	3	3	自分のやりたいこと、生きがいを感じることに、自分の理念に近いこと、自分の理想に近づけることなど自分自身の生き方やライフスタイルにあった企業を選びたいと私は考えているため、中小企業でも大企業でも全く気にしていない。
232	2	3	2	授業で中小企業について良い面、悪い面を学んだが、やはり、中小企業よりも大企業の方が安心できるという考えがあるから。
233	2	3	3	まだどちらとも言えない。興味のある内容なら中小企業、大企業関係なく行きたいと思うから。
234	2	3	3	私は就職先を決める基準は会社の規模感ではありません。自分がしたいこと、自身の能力が最大限に発揮できる所であれば、大手でも中小企業でもどちらでも良いと思っています。
235	1	3	3	どちらとも言えない理由は、働く立場によるからです。私が働くうえで重視することは自分の仕事に対する評価、すなわち報酬にあります。被雇用者として働くのであれば、給料・福利厚生を整った大企業で働きたいですし、雇用者として働くのであれば、私の父がそうであるように営業成績の波によって多少上下はしますが、中小企業でも割と安定して世のサラリーマンの方々よりも収入を得ている事実があり、さらには、人に指示されることなく自分の思うことを実現していくやりがいがあると思います。
236	1	3	2	中小企業やベンチャー企業で働くことはもちろんチャレンジできる幅が広がり、任せてもらえる業務の幅が広いなどとメリットが多いが、今後何十年後の将来を考えると、老後も安定した保障を得るために、そして将来転職を前提としたキャリアアップを図るためには、ある程度グローバルな規模で知名度のある企業で務める必要があります、この二つの理由より、自分に一番適しているのはやはり大企業であるのかなと考えています。
237	1	3	3	自分が就職するというときに、あらゆる考慮する要素が存在するが、30, 50, 100年後も生き残って行く企業という視点で考えた時に、中小企業が発展して生き残る可能性、大企業がそのまま生き残る可能性を比較した時に、大企業に就職することに意義はあると考えられるから。
238	2	3	4	大企業に比べ、中小企業は従業員数も少ないため自分の意見を主張しやすい環境やチームワークの面では優れていると思います。そのため、早く企業の第一線として活躍したいという人には向いていると思います。自分の努力によって企業が成長するのも大企業に比べ目に見えやすいと思います。しかし、福利厚生の方からみるとやはりその点は大企業の方が充実しているように感じます。また、中小企業に比べ大企業の方が安定感があると思います。大企業では何かひとつ問題が起ころうと、それを立て直す力や財力がありそうですが、中小企業ではそのような際に大きく会社に影響を与えて傾いてしまう可能性も高いのではないかと思います。以上のことから、自分の成長や意欲だけを優先すると中小企業で働く方がよいと思いました。しかし将来の安定を優先するのであれば大企業で働く方がよいのではと考えました。
239	1	3	2	今回の講義では下請けがテーマだったが下請けは、利益が少なく給料も大企業よりも安いイメージがついてしまったために中小よりはるかに大企業で働きたいと感じたから。また、福利厚生なども大企業のほうがしっかりしているイメージがあるから
240	1	3	3	大企業に入ると、歴史があり、教育制度などがしっかりと充実している場合が多いため、自己成長が見込まれるからです。しかし、中小企業に入れば、自分が当事者として働くことが可能な可能性が高いので、別のスキル、やりがいなどが感じやすいと思うためどちらともいえないです。しかし、大企業の方がキャリアアップはしやすいかなと思います。
241	2	3	4	私は、働く場に対して自分の意見や想いを発信・実現させてくれる環境があること、私にしかできないと言われるくらい成長できる環境にあること、いわば仕事の要求水準が高い環境であること、そしてオペレーティブな仕事からイノベーションな仕事ができるキャリアを提供してくれる環境であることを求めている。そのため職種は営業職ではなく、なるべく経営陣に近いものを求める。そこで中小企業であれば経営者との距離が近く、少人数であるからこそ求められる仕事の水準も高いため将来的に大企業よりも中小企業で働きたいと考える。
242	2	3	3	大企業、中小企業ともに良いところがあるからである。しかし、外部講師の方のお話を聞いて中小企業は大企業では簡単には行かない地域密着型の事業を企画できるので、中小企業論を受講してから大企業よりも中小企業に目を向けるようになった。大企業という選択肢もあるが、型にはまった企業で働くよりも中小企業のように今までのイメージを日々想像していく企業もおもしろそうだった。以上の理由から、どちらともいえないを選択した。
243	1	3	4	さまざまなお話と連携して事業を進めていくのに関心があったから。それによって幅広い分野に携わることができる。また、大企業では上言った通りの事しかできないが、中小企業なら融通が効くことが多く、大企業に切られれば終わり、という話を親からも聞いている。そのため、どちらがいいかと言われると、魅力があります。それ以上に大企業の収入の安定や地位等で感じることもできるという点を見つけている。やりがいを見つけていないという人は人生幸福でない、いつか心を病んでしまう。なので、やりがいを見つけやすい中小企業の方が働きたいと考えている。
244	2	3	3	どちらとも言えないを選んだ理由は2つあります。1つ目に、そもそも就職先を考えるうえで、大企業が中小企業かと2択で考えていないからです。同じ大企業でも中小企業でも、結局は企業1単位ごとで異なると考えております。2つ目に、私はIT業界に関心があり、IT業界に属する企業の多くがベンチャー企業です。多くのベンチャー企業が中小企業に分類されるフェーズですが、今後数年で大企業に入る企業もあります。以上の2つより、私は大企業でも中小企業でもどちらでも良いと考えております。
245	2	3	2	大企業は名前が世の中に知れ渡ったところが多く、自分の企業が世の中に精通していると実感できるからです。中小企業だからこそ、ニッチな業界で実力をあげることができ、大企業には理解しきれない経営のノウハウや闘いや苦しさがあり、それに打ち勝つことができ、仕事にやりがいを感じるだろう、という魅力があります。それ以上に大企業の収入の安定や地位等で感じることもできるステップアップ、自分の実力を確実につけることができ、それを活かす場が間違いなく用意されていること等、自分が注目すべき点が多いのは大企業です。私が女性ということもあり、短期間でやりがいを感じることもできるのは大企業だと思っています。
246	2	3	2	講義で、中小企業にも良い企業はたくさんあるし、大きさが全てではないと理解はしたが、それでも今まで勉強を頑張ってきて、中学から私立に通わせてもらったなら、誇れる名前の知れた企業に就職したい。
247	1	3	2	大企業と中小企業を比較したときに、やはり中小企業より大企業の方が賃金や有給休暇取得率などがいい、というイメージを持っているため。実際に中小企業は大企業の下請けなどがメインであることが多く、大企業に切られれば終わり、という話を親からも聞いている。そのため、どちらがいいかと言われると、大企業の方を現実的には選択する。ただ、もし自分にとってどうしてもやりたい仕事があったらニッチなところに存在していて、それを行える環境が中小企業や（ベンチャー企業）に存在しているなら、中小企業で働くことには十二分に魅力を感じる。いずれにせよ、自分に興味、関心がありません。賃金や待遇のみで客観的に企業を判断する場合には大企業という結論がでるだろうし、主観的にしか判断できないような魅力が存在しているなら、中小企業に就職する可能性はある、ということだ。
248	2	3	3	やはり大企業と呼ばれる企業で働きたいと言う気持ちがあるから。でも、中小企業で働きたいという気持ちはない。
249	2	3	3	中小企業の方が会社への自分の貢献度を認識しやすき、やりがいを感じて働けると感じているので。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
250	1	3	2	講義や講演会などを聞いてやはり大きな魅力は感じましたが自分の遣りたいことと進みたい領域を考えると中小企業ではないのかなと思う結論にはなりました。ですが将来自分で中小企業を設立したり取引をしたりなどと言うことをできたらいいなと思っています。
251	1	3	4	中小企業の方が社員数も少ないため、意思決定がスピーディーで、かつ実力次第で昇格・昇給しやすいという特徴がある。また、仕事の進め方も大企業と比べて自由度が高く、自分のアイデアを活かせるため、自分は中小企業の方が細かいところまでルールが決まっていて、自分の影響力を実感しにくい大企業より活躍できると思うから。
252	2	3	5	1つは、大企業に比べて中小企業は風通しがよいと考えられることです。もちろん企業にもよりますが、大企業では社長との距離も近く、自分の努力や成果は直属の上司などにしか伝わらず、もっと上の立場の人にはなかなか届きにくいものだという印象があります。一方で中小企業は組織の規模も小さくなるので、努力や成果が比較的認められやすい環境なのではないかと思えます。2つ目は、組織の一体感です。こちらも人数が少ないということから、大企業に比べて、仕事へのやりがいや、同じ目標を持って企業に貢献しようという教育をしやすいのではないかと考えられます。
253	2	3	1	大企業に就職して、そこで働く人と結婚したいからです。大企業は収入が安定していて、高いと思います。そのような男性と結婚できたら幸せだと思います。また、大企業に勤めた方が世間体やイメージがいいと思います。中小企業は半沢直樹などの影響で財政難や安定していないイメージがあります。
254	1	2	3	まだ何も調べていないので中小企業で自分のやりたい仕事が良い企業かわからないのでどちらともいえない
255	2	3	3	私の夢は、思いやりに溢れ信頼のおける日本の商品やサービスを世界に発信するお仕事に携わることです。そのため、市場規模の大きい大企業そして世界を舞台とし、競争力を高めるためには、企業ブランドが重要であると考えます。しかし講義を受けるなか、中小企業について学び11月1日に行われたゲストスピーカーの多田知史先生の講演から中小企業は地域密着型で地域ごとに貢献している魅力的な企業が多い事を知ることができました。近年では新企業の支援なども充実していて、可能性に満ちた企業が多く、私が知らなかっただけで JAPAN ブランド事業 (世界に通用するブランド力の確立を目指している) の支援も充実してきていること、そして、中小企業は、地域に根付いており、他の複数の企業と相互扶助の関係を築いていることが分かりました。以上の理由から、当初より、興味がわきました。
256	2	3	3	私は、自分自身が行う行動による成果が見えるとき、また、ある程度裁量の権限があるときにやりがいを感じます。よって、将来の仕事についてもそのような職に就くことができれば大企業であっても中小企業であってもよいと考えています。中小企業に魅力を感じるようになったきっかけは、地銀に働く父が中小企業の人と関わったエピソードを多く耳にする機会があったからです。やはり、大企業に比べて不安定な部分もありますが一人一人の成果が会社の利益につながるということは、働いているうえで困難なモチベーションを保つことへつながるのではないかと感じました。加えて、中小企業であれば会社全体でなを行なっているかが大企業に比べるとわかりやすいため、積極的に取引組めば将来独立をしようと思った際にも役立つような能力もより身につけることができるのではないかとします。一方で大企業の魅力はやはり安定しているという点とより大きなプロジェクトを動かせるチャンスがあるという点です。以上が、私が仕事に対して重視したいと考える二点を踏まえたとすれば、大企業でも中小企業でもどちらにも魅力を感じると考えられる理由です。
257	1	3	3	大企業と中小企業どちらにもメリットやデメリットがあるのでこれから就職活動をする中で見極めていきたいと考えているから。
258	1	2	5	中小企業には中小企業故のメリットが点在する。1つは小回りの効く業態であることだ。会社が大きくなればなるほど一人一人の意見を取り入れていたら集団としてまとまらず、会社の経営もぶれる。しかし、人数の少ない中小企業にはチャレンジする環境が整っていることが多い。私は挑戦することが好きである。まだ見ぬ世界、景色を自分の手で見にいきたい。大企業は確かに安定的かもしれない。しかし、そんな平凡な人生なんて退屈だ。栄枯盛衰は世の常で明日のことなんて誰にも分からない。だからこそ明日につながる仕事をしたい。折角時間を売ってまで仕事をするからにはその価値に値するだけの成果と充実感を求める。これは大企業を否定しているわけではない。多くの部署があり、福利厚生も整う一種のコミュニティに所属する考え方も真っ当でそれぞれの捉え方に準拠するだろう。ただ私は同じ時間仕事をすれば新しい明日を作り出すクリエイティブな立場にいたいだけである。それは簡単なことではないかもしれない。しかし、それはいつの時代の先駆者が広めてきた代価だ。逆に言えば、同等の努力を払えば私にも時代を席巻する新しい世界を生む可能性があるということだ。これは挑戦するしかない。目まぐるしく変化する現代におけるニーズに応える最高のパフォーマンスを将来したいと考える。
259	1	3	3	大企業には大企業の、中小企業には中小企業の良さがあると考えます。以前は勝手な自分自身の中のイメージから大企業で働きたいと考えていましたが、今年の夏季休暇に参加したインターンシップで中小企業を数社も試してみたら機会があり、素晴らしい部分も多いことに気づきました。そのことを機に就活では企業の大きさに関わらず働きたい企業を探していきたいと考えてようになりました。
260	2	3	2	大企業で働くこと世の中を動かすような仕事を自分が一部を担っていると考えるようになるということと福利厚生が整っているからこそ働きやすいのではないかと考えたからです。しかし大企業に就職したから収入が多いというわけでもないの、自分のやりたい仕事・業種の中で大企業があればそこにいけたらいいと思いますし、もし中小企業でもその企業が発展・成長段階でやりがいがありそうなら私は中小企業で働きたいと思います。
261	2	3	3	まだ将来の夢を具体的に決めれていないため、どちらともいえなかったから。
262	1	3	3	中小企業、大企業の中でもさまざまな企業が存在しており、企業の規模で勤務先を選びたくはないと考えているからというのが大きな要因です。製造業で考えれば、より高い技術のある競争力の高い企業で働きたいというのが私の企業選びの軸であります。ただし、安定性を求めているという部分もあり、そう考えると大企業の方が自分自身の求める条件には合致するのですが、中小企業の中にも何年も経済活動を行ない、歴史を形成してきた企業も存在しており、そうした企業であれば、私の条件には当てはまります。このように考えれば中小企業・大企業という企業規模で就職したい企業を選ぶのは違うので、どちらも良いという結論に至っています。
263	1	3	2	私は絶対に大企業で働きたいと考えているわけではありませんが、中小企業は取引の規模が小さく顧客が少ないため会社の将来性や安定性が低いことや福利厚生が整っていないのではないかとイメージがどうしても残っています。しかし一方、大企業には会社の歯車として働かなければならず、自分の能力を発揮してやりがいを持って働くというのは難しいものかもしれない従業員の数も多く同期として入る人数も多いため出世などにおいてライバルが多く人間関係に苦労するのではないかとイメージもあります。このようにどちらにも多少のマイナスイメージがある中でどちらかといえば大企業に勤めたいと考えたのは、大企業にはネームバリューや社会的信用があると考えたからです。私は1年間の浪人をして大学に入学したため、人より時間とお金を掛けて大学に入ったからには社会的に知られている企業に勤めたいという気持ちがあり、大手に勤めているというブランド力のある大企業に勤めたいと考えました。
264	2	3	2	女ということもあり、大企業のような福利厚生が整っている環境で働きたいと考えているからである。出産後復帰できる環境であること、勤務時間等、勤務形態が柔軟である環境で働きたい。大企業と中小企業を比べた場合、大企業の方が福利厚生が整っているのではないかと考えているため、あまり中小企業で働きたいとは思わない。
265	1	3	2	やはり大企業のほうが安定しているイメージがある。しかし中小企業にも優良な企業はたくさんあると聞くので、就活を控える私にとっても捨てがたいといった印象。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
266	1	3	2	理由は2点あり、1つは大企業の方が企業の規模が大きい分、多くの企業と接触することができ、自分の知見を広げることができているからである。中小企業では、その影響力は大きくない。大企業の場合、その逆でファーストキャリアを考えるうえでは、幅広い職種、幅広い提携、幅広い職種を経験できる方が自分に適していると思うので、自分にとって企業規模が大きい方がいいと考えたからである。理由の2つ目は、幅広い経験ができるので、転職しやすいと分かったから。自分としては、1つの企業だけでなく、セカンドキャリアも考えているので、そういう意味では大企業に所属して転職しやすい環境にいた方がいいと考えたからである。
267	1	3	2	多くの中小企業は残業代が出ないことがあることや、ボーナスが大企業に比べて少ないこと、また、大企業に入れば、その他の大企業にも中小企業にも転職できる可能性が高いが、中小企業からの大企業への転職は極めて可能性が低いことなどの、比較した時の弱い部分が出てくると頭に浮かんでしまうため。やはり、新卒の採用を重視する世の中での仕組み的にも、一度レールから外れてしまうことが怖いということもある。
268	1	3	1	中小企業には中小企業の良さがあるということは授業を通して学ぶことができたが、メーカー志望の自分にとって、よく身の回りで見かけられるような名前の広く知れた大企業の一員として働けることが自身の満足感に大きく貢献するものだと考えられるから。
269	1	3	1	私の定義する大企業とは新人のうちから幅広い分野に対して裁量権を持てる企業のことであり、年功序列の大企業を指しているのではなく、外資系と行った成果重視の企業のことである。これらの企業だと新人のうちから結果を求められるので自らが成長する機会があるうえに、中小企業では裁量権があったとして、成果を出したとしても給与がそれに比例しないといったことが起こらないからである。以上から給与が高く自己成長のできる2つのポイントを持っている大企業を志望する。
270	2	3	3	今の段階では企業研究が全くできていないので、どう思うかが答えられないからです。大企業でも中小企業でも社会の役に立つのであれば就職したいと感じます。
271	1	3	2	大企業に就職する最大のメリットは、生活の安定だと考える。中小企業であれば大きな赤字を出してしまえば、その時点で企業が倒産になる可能性があるが、大企業であれば耐えしのげる場合が多い。大規模な企業に就職してしまっただけで、安定なものもないが、基本的には中小企業よりも大企業の方に就職し、生活の安定を得たいと考える。
272	1	3	3	私の企業選びの軸が、誰が、何を、どんな思いでしているかだからです。つまり、大企業か中小企業か、関係がありません。ただ、私は自分の目標に、全人類的共存・幸福を掲げているので、結果的に大企業を選ぶ可能性が高いです。たとえ現在大企業でなくとも、規模を追求する必要があると感じています。
273	1	3	5	大企業では福利厚生が充実し大きな仕事ができる一方で自分の意見が通らないことや仕事のやる事が決められていることがある。中小企業では自分の意見が重んじられ仕事仲間どうしでの仲間どうしというコミュニケーション関係が築ける一方で中小企業という下請け会社というイメージや大企業よりも福利厚生や給与の手厚い保障がないということがある。以上を踏まえて筆者は中小企業に就職したいと考える。自分の意見が重んじられるほうがやりがいがあると感じられるからである。場数を踏んでしっかり実力と経験をつける例え給与が大企業よりか少なくとものちに経験を生かして独立すれば関係のない話だと筆者は考える。なので筆者は中小企業に就職したいと考えました。
274	2	3	2	これまでにゼミ活動で中小企業を研究してきており、数多くの中小企業の魅力を学んできたため。経営者との距離が近い点も中小企業だからこそその利点であると考えられる。自分自身も経営に参画できる可能性が高いことに私は魅力を感じた。将来的働くうえで、会社の大きさをみることも1つの軸でもあると思うが、中小企業のような個々の存在が大きく尊重される企業で働くことも選択肢の1つとして考えていこうと思った。
275	2	3	3	私は企業を選ぶ際、大企業か中小企業かということあまり重視しないのでどちらともいえない。私は、会社内の人間関係や仕事内容、また労働環境や勤務地を優先的に見て働く企業を決めたい。また、それぞれの特徴をなんとなくしか理解していないこと、その特徴がすべての企業に当てはまるとは限らないと感じていることも理由に挙げられる。例えば、大企業は大きすぎて社内がどのような構造になっているかわかりづらいが、中小企業であれば全体見渡しやすく自分ごとの部分に携わっているかわかりやすいという特徴がある。しかし、中小企業には大企業くらしの大規模な企業もある。逆に、大企業でも全体が把握しやすいような構造になっていたり、わかりやすくする教育や工夫を行っているところもあるだろう。それらは単純に大企業だから、中小企業だから、と断言できるものではないように思う。以上のようなことから私はどちらがいいというこだわりは持っていない。ただし、そのうえでどうしても選べると言われるのならば中小企業だと答える。なぜならば、中小企業は大企業を比べた場合、地域に密着した事業を行っているイメージが強いからである。私は地方から出て大学に通っていることもあり、改めて自分の故郷のよさを感じる機会があったので地域に寄り添ったその人たちのために働きたいと思うからである。
276	1	2	5	1つの組織としてトップが全員と関係を持てる環境が魅力的に感じるから。また、父親が中小企業の経営者で跡を次ぐことも考えているから。
277	2	3	3	中小企業は若いうちからいろんな仕事を任せてもらえるイメージがあり、また成長性が見込めるといったメリットもあるため、中小企業で働きたいというわけではない。ただリクナビやマイナビなどの就職サイトを見ていると中小企業の採用に関する情報が少ないので、どうしても大手企業や有名企業ばかりに目が行ってしまふ。
278	2	2	3	日本で働くなら、やはり福利厚生がきちんとしているのは大企業なのかなと感じます。また、インターンや説明会などでその企業の様子や理念を見かけやすい、知りやすいというのも大企業の特徴だと感じます。しかし、中小企業だから福利厚生がしっかりしていない、経営が不安定だ、などと決めつけて考えるのではなく、自分がやりたいこと・何かものづくりを極めるために「この企業でなければ」という中小企業があればその企業で働いてみたい。大企業だから、中小企業だから、という偏見をもった見方で決めるのではなく、「この企業だから良い」と思えるところで働きたいと考えています。
279	2	3	1	将来、私が働きたいと考えている業界は、大手企業が90%以上を占めているため、中小企業で働きたいという考えには至りませんでした。
280	2	3	2	知り合いや友人に就職先を聞かれたときにやはり、皆が知っている企業の方が鼻高く話すことができると思うからです。親と就活の話をしていて親が知らない企業のインターンシップに参加することを伝えると、その企業大丈夫？怪しくない？と心配されます。また、現在のところ金融業界を志望しており、中小企業が少ないように思います。
281	2	3	2	中小企業の事業の自由さについては、興味がそそられるが、それでもやはり大企業より不安定な部分を感じることもある。自分の将来への安定性を希望しているため、大企業への就職を希望する。
282	1	3	5	問一のように答えた理由は主に、大手企業よりも早くから成長できる可能性が高いからです。大手企業の場合まだまだ年功序列の文化が根付いていることが多く、若手に任せてもらえる仕事は限られています。しかし、中小の場合は人数が少ないこともあり、若手でもいろいろな仕事を任せてもらえることがあり、やれる範囲を広げることができます。それにより早くから成長することができる可能性が大手よりあると思うからです。
283	1	3	3	父も祖父も中小企業経営者のため、中小企業にはかなり馴染みがあるから。中小企業の方が自分のやりたいようにできそう。
284	1	3	5	
285	1	3	3	年取とかの面では大企業の方が優れており、成長率や今後の面を考慮すると中小企業の方が優れていると考えたのでどちらが良いとは一概に言えないと思ったから。
286	1	3	5	僕が中小企業で働きたいと考えている理由は人と人とのつながりを一番大切にしたいと考えているからです。自分は今個人経営の居酒屋で3年間働いています。その中でオーナーと距離がとて近いため自分でどのようにしたらこの店が売れるかどのようにしたらよりお客様に喜んでいただけるか日々考えています。その中で自分が出した意見が採用され、その結果売上が上がった経験があります。その時とてもやりがいを感じられました。そのため私は中小企業で働きたいです。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
287	2	3	1	やはり大企業の方が名前が通っていて、何かと有利なかなと考えるからです。また、中小企業に関する情報があまりないので、中小企業自体をあまり知らないからという、理由もあります。
288	1	3	1	自由が効くようで自由が効かなさそう。給与のみならず待遇の面でも大企業の方がよさそう。
289	1	3	3	大企業と中小企業を比較したときに差が出てくるのは資本金だと考えられる。しかし、だからといって中小企業が大企業に劣っているというわけではない。例えば意思決定から行動までの迅速さは中小であるスタートアップ企業では強みである。また、京都の老舗企業などは町全体が企業の風格を作っており、コミュニティや共同体としての強みも生かせるはずである。よって中小企業と大企業のどちらに入りたいか、というのは自分のビジョンによるものだと思うのだが、現在自分自身のビジョンが確立されていないために、「どちらともいえない」を選択した。
290	2	3	3	この講義を受講する以前は、大企業はやはり名前が知れ渡っているから興味関心も持ちやすく、また安心であるというイメージを抱いていた。しかし、日本の企業の9割以上が中小企業であることや中小企業の中でもさまざまな働きをしている人たちがいる、ことを知り、今はどちらが良い悪いなどということとはなくなった。
291	1	3	3	中小企業は風通しの良さや独自の技術などに優れている印象を受ける。一方で大企業は福利厚生が充実していて、技術も優れているという印象を受ける。大企業と中小企業どちらで働きたいかという問いについては、どちらにも魅力的な部分があり、規模の大小には左右されないと思うのでどちらともいえないを選んだ。
292	2	3	3	同志社を出るなら中小なんか就職せずに大企業に就職しろと周りから言われるから。自分自身、自分のやりたいことが中小企業にあるならそっちで働きたい。
293	1	3	2	大きな組織で活躍して結果を残したい。
294	1	3	2	中小企業は給料の面で不安が生じるため。大企業に入れるのならば大企業に入って安定した給料の元で生活を確保したいと考える。また、ネームバリューも理由の1つである。ネームバリューがあると、同時に社会的地位が高くなるのは1つの側面として、否めない点だと考える。現在、同志社大学の生徒であるが、個人個人の能力よりも大学のネームバリューで個人を判断されることが経験上よくありえたことだ。そのため、できる限り大手企業志望になってしまうと思う。
295	2	3	2	中小企業ではやりがいを感じますが、大企業のほうが、安心して働けるような印象がぬぎきれません。また、名前の大きさの観点でも、大企業で働いて親を安心させたいという気持ちもあります。もちろん、誇りを持って働けたら、どんな会社でも全力を出せるとは思いますが、どちらかと問われたら大企業で働きたいです。
296	2	3	1	できるだけ多数の人と関わりたいと思うからです。親の転勤の都合で兵庫県で生まれましたが、小学校時代は愛知県と東京都で育ったからか、いろいろな人と関わることに抵抗がなくむしろ、たくさんの人と関わりたいと思うようになりました。また、小学校時代の経験より地域によって小学校のカリキュラムや遊び内容が大幅に違うことを身を以て経験したため、さまざまな地域に転動していろいろ見てみたいと思っています。中小企業となると全国転勤というのは難しいため、大企業を希望しています。
297	2	2	3	やりたいことであるならばそれが大企業であろうが中小企業であろうが関係ないと思っているからどちらでもないと回答しました。
298	1	3	2	あなたは将来的に大企業よりも中小企業で働きたいとどちらかといえばそう思わないと答えた理由は2つあります。1つ目として大企業と中小企業で事業規模を比較すると大企業のほうが経済や日常生活に影響を持っていると考えるのでそのぶんやりがいを感じるのではないかと考えたからです。2つ目として中小企業においてキャリアを考えるともしもの時の転職において知名度の低さから不利になるのではないかと考えるからです。この2つの理由によって私は大企業で働きたいと思います。
299	1	3	2	講義を通して、中小企業で働くことになった場合、やりがいを感じることは多いのではないかと思います。しかし、安定性などを考えた時、大企業よりも中小企業に勤めたいと積極的に考えるまでに至る理由は現段階ではありません。
300	2	3	4	今まで中小企業と聞くと、「大企業と比べてブランド力に欠ける」だったり「中小企業は収入が不安定そう」といったネガティブなイメージばかり持っていた。大企業と中小企業の線引きの基準も知らずに勝手になんとなく大企業の方がいいと思いついてきた。将来就職するところは絶対に安定した大企業がいいと考えていた。しかし、中小企業論の授業を受けて、考えが大きく変わった。まず、驚きだったのが中小企業の定義だ。資本金と従業員数のどちらか一方でも中小企業の定義に入れば、それは中小企業になるという量的規定のもとである、世界を相手に活躍している大企業のようなところも含まれてしまっているそうだった。大企業の子会社と町工場で細々とやっているところが同じ分類に分けられてしまうという問題点があった。【中小企業】という名前は同じでも大企業と比べて相対的に規模が小さいだけで、絶対的な概念はなく、その幅は大変広いものであると感じた。また、大企業と言われればいくつも会社を挙げられるが、中小企業と言われると思いつくところがなかったのだが、前回の外部講師の方のお話の中で紹介されていた中小企業の技術はどれも日本の豊かな生活に必要不可欠なものだと感じた。聞いたことのない会社だったが、その技術は私たちが生活のとても身近なところに使われており、私一人の生活に寄り添いより豊かなようなサービスを提供したいと思った。また、中小企業基盤整備機構のような中小企業の成長をサポートする政府機関もあることを知り、支援がきちんとなされているという安心感にもつながった。地方自治体と連携しその地域資源を用いて地域活性化にも貢献している点も素敵と感じた。授業を受けていくうちに、私は中小企業で働きたいと思うようになった。大企業はネームバリューがあり、安定しているが仕事のやり方が確立されており、誰にでもできる仕事いわば大人数いる誰かで替えがきく仕事だ。中小企業は人数が小規模なため、人間関係が密に築け、大企業と比べ比較的自分の意思も反映させやすく個人の裁量が大きいのと魅力を感じた。専門性の高い仕事ができるということもやりがいになると思う。しかし、やはり大企業と比べると福利厚生が充実している面では不安が残る。また、下請関係どうしても大企業と対等にはなれないという点がデメリットのように感じている。大企業にとっていくつも選択肢のあるうちの1つにしかすぎない下請け企業ではなく、なくてはならない存在である企業に成長させていく過程に自分も関わっていききたい。
301	2	3	2	一番の理由として、大企業は中小企業に比べて圧倒的に安定しているからです。大企業の経営不振やリストラなどがニュースで取り上げられているが、中小企業の場合は当たり前すぎてニュースにならないことが多い。このことから、安定して収入ももらえることができる大企業の方が働きたいと思う。もう1つの理由として福利厚生がしっかりとしていることが多い理由は大企業です。産休や育休など女性が働くうえで大切なことで、手当などもしっかりとしていることが大きな理由です。
302	2	3	2	自分の知識がないということもあるが、理由の1つとして、中小企業は制度がしっかり整っているかが不安である。自分が就職先を決めるにあたって充実した福利厚生というものがない条件であるため、そのような制度がしっかりあるか情報を公開していないもしくは調べにくい中小企業もあることからあまり就職先の候補には上がらない。つまり、中小企業について未知な点が多いためである。
303	2	3	3	一番の理由はまだ自分が自身の将来について絞り込めていないということがあります。規模や業界といったことよりも、いかに自分らしく仕事ができるか、自分の時間を大切にできるかといったことが自分の中で今は一番重要性が高いからです。また、もう1つの理由としてこの講義を通して考えに変化があったこともあります。この講義を受けるまではやはり大企業の方が魅力的に見えていて、働くなら大企業だと考えていました。年金など将来のことを考えれば多く保障のある方が安全だとも思っていました。ですが公演を聞いて魅力ある中小企業のことを知ったり、新連携による新事業開拓などの話を聞きおもしろいなと思えました。以上から、現段階では大企業で働きたいわけでも中小企業で働きたいわけでもなく、自分に合っていると思えば規模や生産性、業種に関わらず働きたいと思う傾向にあるので、どちらともいえないと選択させていただきました。
304	2	3	1	できるなら、給与なども良いので有名な大企業で働きたいです。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1	問2
305	1	3	2	大企業の方が中小企業よりも規模が大きいので、仕事の幅も比例して大きくなると感じるため。その分インセンティブも多くもらえ、将来的に豊かになれると思う。お金がすべてではないが、今のところ中小企業で働くメリットよりも大企業のほうが自分の中では良く写っている。大企業は福利厚生が充実しているイメージを持っているため、私生活にも良い影響を与えられると思う。今後の企業研究などでは、今の考えが変わることも十分に考えられるが、現在の考えでは以上の見解である。
306	2	3	3	私は教職を目指しているので、就職に関してはどちらともいえないを選択しました。しかし、中小企業論を受け中小企業のあり方や実際どんなことをしているのかを知りました。高い年収やブランド力が欲しいなら大企業を選ぶべきかもしれませんが、長く安定した収入ややりたいことを形にできるのは、中小企業ではないかと思いました。
307	2	3	2	大企業のほうが、リストラされにくく、存続して行くと考えているから
308	1	3	2	私が、将来的に中小企業で働きたいとあまり思わない理由は、いくつか挙げられる。まず1つ目に、給与が少ないことである。もちろん企業によって異なることもあるので一概には言えないが、大手企業と比べると低くなってしまう。将来、家庭をもった際に給料は生きるために必ず重要となるので給与が低いと不安であることが働きたいと思わない理由の1つである。また給料が低いにもかかわらず、労働時間は長く、残業も多いイメージもある。つまり二つ目としては福利厚生に対して悪いイメージがないのが理由である。三つ目は企業の安定性・将来性である。いつ潰れるかわからない不安や、将来的にも成長しない可能性などがあるのが嫌だと私は思った。
309	1	3	2	日本の企業の99%が中小企業ということを考える、就職活動をするうえで視野に入れるべきだと考える。さらにゼミ活動の中で実際に魅力的な中小企業の経営者の方と関わる機会もあり、中小企業に対する偏見（労働環境が悪い、福利厚生が悪い等）は持っていない。しかし大企業と比べると情報収集が大企業に比べてやり難いこともあり、中小企業について詳しく調べていないのが現状である。やはり「就職したい」と考えるための材料として中小企業について知る必要があるため、積極的に中小企業の採用活動に参加したいとは思えない。
310	1	3	1	私が中小企業に勤めたいと思わないのは、大きなこと成し遂げたいと思っているからです。また、それが実現できた時に自分にとって大きな達成感や楽しみになると感じているためです。また大企業のなかでも、業界で1位2位を争うところに行きたいと自己分析をして分かりました。給料面を考えると、中小企業でも良いところは良いので、中小企業で働くこともありだと思います。ただ、仕事のやりがいの視点から考察すると、その業界で一番、または、その会社で1番を狙った方が明らかにおもしろいと思えます。最終的には世界で一番になれるといいなと思っているので、私が大企業で働きたいのは、それが近道だからです。 先ほど、中小企業の給料は良い所は良い、と言ったのですが、実際に良いところは大手企業よりも良かったりします。また、中小企業がつぶれやすくとよく言われていますが、国からの支援があるのでつぶれにくくなっていますし、若い段階から大きなプロジェクトに参加できるなど、メリットがたくさんあります。しかし、やはり自分の価値観や仕事の幅を考えると中小企業に就職して世界と戦えるほどそこで学びがあるものなのか、そこに関しての少し疑問を感じています。これが私が中小企業より大企業を選ぶ理由です。
311	1	3	2	せっかく同志社に来たので目指すところは上を目指したいから。
312	1	3	2	大企業のほうが何となく安定してそう
313	2	3	4	中小企業の方がより地域とのつながりが強そうだと思うから。また大企業に比べて人数が少ないため、企業内での結束も強くなりそうだし、自身の企業への貢献も実感しやすいだろうと思ったから。
314	2	3	3	大企業と中小企業を分けて希望を考えていないから。大企業でも中小企業でも、自分の価値観にあった企業なら入りたいと思います。
315	1	3	2	中小企業に勤める主な利点として新人の頃より大事な仕事をまかされたり、さまざまなスキルを獲得できる仕事を与えられたりするなどが挙げられるが未だ、労務管理体制が確立していない中小企業の方が多いのでどちらかといえば大手に勤めたい。
316	1	3	3	どちらもとも言えないと回答した。その理由は、自分のしたい仕事というのがまだはっきりしていないからである。自分のしたい仕事であれば、その企業が大手企業であり、中小企業であり、その企業で働くと考えている。私は自分のしたい仕事、関わりたい仕事をする場所を選ぶ。
317	1	3	2	私のイメージではやはり大企業のほうが一定の規模があるため、長期雇用で安定だし、中小企業より社会的地位が比較的にいいと思われるからだ。現実的話なのですが、もし自分が将来企業に入ったら住宅ローン、クレジットカードとかを申請しなければならぬ。こんなときの審査は会社レベル次第の場合がある。また、大企業はパワーが強いかつ資金を持っているので、もし新規事業に参入するとしたら中小企業より展開しやすいと考えるからだ。
318	2	3	3	私の考えでは、対外的には大手企業で働くことで周囲の意見や見方、つまり自分のステータスが上がると思います。しかし、それ以上に私が職業を選ぶうえで重視することは自分がそこで何を学べるかということなので、もし中小企業の中に自分を成長させてくれる企業があればそちらを選ぶかもしれません。なので、どちらもとも言えません。
319	2	3	5	中小企業の方が顧客や地元の人と密接に関わることができると思えるからである。顧客とも従業員同士でも関係が近いような場所で働きたいと思っているため中小企業を志望する。
320	2	3	3	大企業で働くことが必ずしも自分にとって良いわけではないと頭ではわかっているけどどうしても大企業ばかりみてしまうから。中小企業は知名度も低く年収などの面からどうしても避けてしまう。中小企業でも良い会社はたくさんあると思うので、これからはまず業界を絞り、そこから中小企業大企業関係なく企業を見ていこうと思うのでどちらともいえない。
321	1	3	2	大企業はピラミッド構造の上に立つことが多く、中小企業は下に入る。つまり優位に立っているのは大企業の方だ。最終製品製造企業の方が圧倒的に優位であり、中小企業はその大企業に使われる下請けのイメージが強く、値引き交渉など強気で来られると折れるしかない状況になる可能性が高い。つまり大企業と比べると中小企業ではたらくメリットがあまり見出せないということだ。もちろん中小企業は社員同士の距離が近かったり、他の企業や顧客に寄り添ってニーズに合った商品やサービスを提供できるメリットはある。しかし、働くのであれば、無くなるリスクの少ない大企業で安定した賃金と教養を得られる方が良く私は考える。私の性格が安定志向なことも大企業で働きたい理由である。しかし、中小企業論の外部講師のセミナーで実例を聞いて、中小企業で働くのも良いな、と思ったのは事実だ。自分のやりたいことが実現しやすいと点や上記で挙げた社員同士や他の企業や顧客と距離が近いという点は魅力であると感じた。
322	1	3	3	私は中小企業で働きたいかといえば、どちらとも言えないと思います。なぜなら中小企業と大企業、どちらにもメリットとデメリットがあると思うからです。例えば中小企業の場合だと景気の影響を受けやすい、給料が大企業に比べて低いといったようなマイナス点が挙げられる一方で外部講師の方の話にあったようにより地域に密着して仕事ができる、やりがいを感じられるような仕事ができるといった良い点も感じます。大企業の場合だと中小企業に比べて給料は良い一方でブラック企業などのマイナスの印象も見受けられます。私個人的には休みを取れる企業というのが重視している点です。また私は就職で困らないために同志社大学に入学したという気持ちがあるの少いからといって新卒で中小企業に就職するのはどうなのかという気持ちも持っています。なので私は中小企業に就職したいかと問われれば大企業とも比較しなければいけない点が多いので結論を出すことはできないと思いました。

整理	性別 (1.男性 2.女性)	学年	問1		問2
323	2	3	2		<p>収入面や福利厚生を考えると中小企業はあまり良くない。仕事メインで働きたいとは思わないのでそういった部分は重要だと考える。勝手なイメージかもしれないが中小企業の方がチャレンジ精神があり、社員数が少ない分目標を共有できている部分があると考え。しかしそれは大企業で働いていても自分の意識の持ちようではないかと考える。たくさんの社員がいる中で自分はどのようなポジションで働くべきか、どのような役割を果たし自分自身どのように成長していくべきかは、自分の意思の問題だと感じる。また近年大企業でも若いうちから活躍できる制度が整えられている。このように成長性やモチベーションに関しては両者変わらないと考える。そうするとやはり福利厚生や収入面を気にしてしまうので大企業の方がいいと感じる。</p>
324	1	3	3		<p>就職を考える際に、企業の規模はそこまで重要ではありません。大企業は、中小企業に比べて事業の社会的インパクトが大きいが、意思決定の遅さがあるという印象があります。また、中小企業は、大企業に比べて柔軟に事業を推進したり、裁量を持って仕事ができるが、社会的意義を感じにくいという印象があります。社会的意義を感じられるか、事業に共感できるか、裁量を持って仕事ができるか、という3つの軸でもっとも良い意思決定ができれば良いと思うので、「どちらでも良い」と回答しました。</p>